

目標年度 令和 12 年度

山形県果樹農業振興計画書

令和 8 年 3 月

山 形 県

目 次

1	山形県果樹農業振興計画の策定にあたって	
(1)	計画策定の趣旨	1
(2)	計画の位置付け	1
(3)	目標年度	1
(4)	主要品目の栽培面積、生産量、産出額の目標	2
2	果樹農業の振興に関する方針	
(1)	果樹産地の持続を脅かす気候変動等への対応力の強化	3
(2)	生産性の向上に向けた生産基盤の強化	3
(3)	新たな担い手の育成・確保、次世代への経営継承対策の推進	4
(4)	消費者・実需者の多様化するニーズに即した国内における販売対策の推進	5
(5)	市場のグローバル化に対応した輸出の促進	6
(6)	集出荷体制の効率化や施設整備の推進による流通の改善	6
(7)	農業の多角化や他産業との連携による付加価値の創出	7
(8)	環境と調和した持続可能な農業の推進	7
(9)	その他必要な事項	8
3	主要品目の振興方針	
(1)	さくらんぼ	9
(2)	西洋なし	11
(3)	りんご	12
(4)	ぶどう	13
(5)	もも	14
(6)	すもも	15
(7)	かき	16
(8)	日本なし	17
(9)	山形らしい多彩な特産果樹	18
4	栽培に適する自然条件に関する基準	19
5	果樹園経営の指標	20
6	高温障害及び対策技術	22
7	参考資料	23

1 山形県果樹農業振興計画の策定にあたって

(1) 計画策定の趣旨

本県の果樹農業は、落葉果樹の生産に適した気候風土のもとで150年にわたり生産者のたゆまぬ努力によって培われてきた高い生産技術によって発展してきた。収穫量日本一のさくらんぼ、西洋なしをはじめとして、ぶどう、りんご、もも、すももなど全国の上位に位置する果樹が多く、「オール山形」体制でのブランド力強化の取組みにより、全国屈指の果実生産県となっている。

また、本県の果樹生産は、観光業や食品産業をはじめとした関連産業への経済波及効果も大きい重要な部門と位置付けられている。

一方、生産現場では、気候変動の影響で激甚化・頻発化する気象災害が、減収や品質低下をもたらし、生産が不安定化しているほか、高齢化や人口減少に伴う果樹生産者と栽培面積の減少、鳥獣や病害による被害の拡大などにより、産地の生産基盤は脆弱化してきている。このため、今後は、①気候変動に強い果樹産地づくり、②生産性の高い果樹産地づくり、③担い手が確保される果樹産地づくりが不可欠となっている。

また、国内生鮮果実の消費量は減少傾向にあり、さらに食の多様化や簡便化志向が進展している。

このような中で、果樹生産者の経営安定と所得向上を図り、これからの50年を見据えた「強靱で持続可能な果樹産地づくり」を推進していくためには、生産・流通・消費をめぐる内外環境の変化に、臨機応変に対応していくことが重要であることから、目指すべき方向性の指針として「山形県果樹農業振興計画」を策定する。

(2) 計画の位置付け

本計画は、果樹農業振興特別措置法第2の3条によって規定する、本県の果樹振興を図るための計画で、国の果樹農業振興基本方針の他、第4次山形県総合発展計画の農林水産業振興に係る計画として位置付けるとともに、その実行計画である「第5次農林水産業元気創造戦略」に基づいた計画である。

(3) 目標年度

本計画は、国の果樹農業振興基本方針に準じて今後20年を見据えた5年間の計画とする。目標年度は令和12年度とし、期間中に産地の状況に大きな変化が生じた場合は、必要に応じて計画の見直しを行う。

(4) 主要品目の栽培面積、生産量、産出額の目標

区分 樹種	現状			目標(令和12年度)					
	栽培面積 (ha) (A)	生産量 (t) (B)	産出額 (億円) (C)	栽培面積 (ha) (a)	生産量 (t) (b)	産出額 (億円) (c)	対比 (%)		
							面積 (a/A)	生産量 (b/B)	産出額 (c/C)
さくらんぼ	2,800	11,230	346	2,450	11,000	380	88	98	110
西洋なし	797	16,440	63	645	13,800	65	81	84	103
りんご	1,980	35,600	97	1,530	30,300	97	77	85	100
ぶどう	1,390	14,380	146	1,070	11,900	149	77	83	102
もも	716	9,258	48	780	11,100	65	109	120	135
すもも	243	1,898	10	230	1,960	13	95	103	130
かき	683	6,130	14	490	4,460	12	72	73	86
日本なし	100	1,346	5	75	1,040	5	75	77	100
8樹種 小計*	8,709	96,282	729	7,270	85,560	786	83	89	108
その他 樹種	641	-	4	540	-	4	84	-	100
合計	9,350	-	734	7,810	-	790	84	-	108

※現状（栽培面積：R6、生産量・産出額：R2-6の平均）。

※「小計」は、表中の樹種の合計。「合計」は、農林水産省「耕地及び作付面積統計」及び「生産農業所得統計」から記載。

目標値：経営体当たりの平均果樹産出額

現状(R2~6平均)798万円→1,250万円 (R12)

2 果樹農業の振興に関する方針

(1) 果樹産地の持続を脅かす気候変動等への対応力の強化

近年、温暖化の影響で、高温や降霜、豪雨などによる気象災害の頻発、新たな病害虫の発生など、果樹生産者を取り巻く環境は年々厳しくなっている。また、中山間地帯の荒廃園地の増加などを背景に、果樹園における鳥獣被害の拡大が懸念されている。

これらの様々なリスクに対応し、農業経営の安定化を図るため、気候変動に左右されない栽培技術の普及・定着を推進するとともに、各種セーフティーネットへの加入促進の取組みを進める。

- ① 近年、高温の影響による着色不良や障害果の発生、凍霜害の頻発等、気候変動による品質低下や減収、病害虫の発生などが問題となっている。このため、気候変動に左右されない高品質安定生産を目指し、かん水設備等の基盤整備や対策技術の導入推進、品種構成の是正、気候変動に対応した品種の開発・普及に取り組む。
- ② 一方で、気候変動がもたらす栽培適地の拡大を見据えて、甘柿やかんきつ等の新規導入を検討する。
- ③ 鳥獣被害防止に向けては、市町村の被害防止計画に基づき、関係団体及び地域が一体となって、侵入柵の設置等の被害防止対策・放棄果実の除去や放任樹木の伐採等の生息環境管理・捕獲を組み合わせた取組みを推進する。さらに、鳥獣被害対策実績や農作物被害情報を共有し、対策の実証や連携強化を促進する。また、研修等により捕獲の担い手の育成・確保、及び農作物被害対策に係る指導者の養成を図る。
- ④ 果樹生産者の経営安定化を図る観点から、気象災害による減収に対するセーフティーネットとしての果樹共済制度や、収入減少への対応としての収入保険制度への加入を推進する。

(2) 生産性の向上に向けた生産基盤の強化

本県では果樹経営体数の大幅な減少が進んでいることに加えて、急傾斜地など作業効率が劣る園地を中心に、園地継承が進まずに耕作放棄地になるなど、生産基盤の弱体化が進んでいる。

このため、省力・軽労的な生産方式やスマート農業技術の導入推進、作業効率の良い平坦部への果樹園移行、老木の改植により生産性の向上を図る。加えて、傾斜の緩和、農道・作業道の整備、かん水施設の整備などにより作業の利便性の向上を進め、規模拡大を推進する。

これらの生産効率を高める取組みや規模拡大を実践するため、各産地の具体的な目標とそれを実現するための取組みを定めた「果樹産地構造改革計画」に基づき、振興品目の新植・改植や園地基盤整備を推進する。

- ① さくらんぼのY字・V字・平棚仕立てなど省力・軽労的な生産方式や草刈ロボットなどのスマート農機の導入推進により、労働生産性の向上と、規模拡大を図る。

- ② 作業の効率化に向けて、各産地が振興する優良品目・品種への改植を契機として園地集積や品目ごとの園地集約を図る。
- ③ ぶどうやりんごの既存園地では、急傾斜地など作業効率が劣る園が多いことから、水田転換などを活用して、作業効率が良く、生産性の高い園地を整備する。
- ④ 各産地協議会では果樹を取り巻く環境の変化に対応しながら、産地計画を随時見直すとともに、果樹新興地域における産地協議会の設置と産地計画策定を推進し、新たな果樹産地を育成する。

産地計画策定状況 (R8.3 現在)

No.	地域振興協議会	策定エリア
1	J Aやまがた果樹産地構造改革協議会	J Aやまがた管内
2	さがえ西村山果樹産地協議会	J Aさがえ西村山管内
3	村山市果樹産地協議会	村山市
4	天童市果樹産地協議会	天童市
5	東根市果樹産地協議会	東根市
6	置賜果樹産地協議会	J A山形おきたま管内
7	鶴岡市果樹産地協議会	鶴岡市
8	酒田市本楯地区果樹産地構造改革協議会	酒田市本楯地区
9	遊佐町果樹産地協議会	遊佐町

(3) 新たな担い手の育成・確保、次世代への経営継承対策の推進

本県の果樹経営体数は、平成12年からの20年間で半減(2020年農林業センサス)している。令和3～7年度の県全体の新規就農者数は1,881人で増加傾向にあるものの、このうち果樹経営に就農した者は396人で、近年伸び悩んでいる。担い手不足が深刻化する中、次代を担う意欲ある果樹生産者の確保・育成が急務となっている。

果樹農業においては、新規就農者等が営農開始後、早期に収入を確保して経営を安定させるためには、剪定をはじめとする高度な栽培技術の習得と、生産性の高い園地の確保が重要である。このため、栽培技術を現場で体系的に習得できる仕組みや、離農する生産者の園地を円滑に継承できる仕組みの構築を推進する。

また、果樹農業においては、さくらんぼの収穫やぶどうの果房管理等、作業が短期に集中することから、臨時的に多くの雇用労働力を確保する必要がある。このため、社員の副業や高齢者、外国人労働者を含め、多様な人材の確保に向け、産地における受入体制の構築や労働環境の整備を推進する。

- ① 栽培技術や経営手法を習得するための研修などの就農支援制度を活用しながら、農家子弟に加え、U I J ターン者や定年後就農者、異業種からの参入などの多様な担い手の育成・確保を図る。関係機関・団体が一体となり、新規就農者に対して就農の動機付けから営農定着、発展までの段階的な支援を実施するほか、市町村やJ Aなどが取り組む「果樹トレーニングファーム」の整備を推進する。
- ② 新たな担い手の初期投資を軽減し、円滑な経営継承を促進するため、地域の協議会や農業法人などが、老朽化した園地や遊休園地を団地化し、生産性の高い園地に再編する「先行投資型果樹団地」の整備を推進する。また、離農する生産者の園地を新規就農者や規模拡大を希望する担い手に円滑に継承するため、市町村等と連携して「樹園地継承データベース」の取組みを推進する。
- ③ 生産資材の高騰を受けて離農を検討する生産者の営農継続や、円滑な園地継承に向けて、老朽化した雨よけ施設やスピードスプレーヤ等の整備を推進する。

- ④ 地域での話し合いをもとに策定された「地域計画（目標地図※）」を随時見直すとともに、計画に位置付けられた担い手への園地の集積・集約化を加速化していく。実際に担い手への園地の集積・集約化を行う際には、それと合わせた改植の実施等による条件整備も含め、農地中間管理機構を活用して進める。

〔※目標地図：地域の農地の効率的かつ総合的な利用を図るために誰がどの農地を利用していくのかを一筆ごとに定めた地図〕

- ⑤ 臨時的な働き手の確保に当たっては、子育て世代の女性やシニア世代などの地域内の潜在労働力の掘り起こしや、企業・自治体の副業制度に着目した協力体制も整備するほか、県域を越えた働き手の確保に向けては農作業受委託の仕組みを活用し、多様な働き手の確保に取り組む。
- ⑥ 高齢化している生産者の栽培管理作業を補うための共同作業組織やサービス事業者の育成に加え、民間企業・団体などによる作業受託の取組みを推進する。
- ⑦ 省力樹形やスマート農機等の導入により生産性向上を図ることで、規模拡大を促進し、大規模な法人経営体の育成や参入を推進する。

（４）消費者・実需者の多様化するニーズに即した国内における販売対策の推進

消費者ニーズの多様化や産地間競争の激化などを踏まえ、他県産地との差別化を図り有利販売につなげるための販売戦略の構築が必要となっている。特に本県は、ぶどう、りんご、ももの収穫量が全国第４位の生産県であるにもかかわらず、消費地での知名度が低く、市場単価が他主産地より低い現状にある。このことから、消費者や実需者のニーズを的確に把握し、消費地との情報交換を図りながらマーケットインの視点に立った販売によるブランド戦略を展開する。

また、本県は、恵まれた気象条件により様々な品目が栽培できる果樹産地であることから、150年に渡り「果樹王国やまがた」を築いてきた。「やまがたフルーツ 150周年」を契機として、その魅力を積極的に情報発信するとともに、多様な販売チャネルの開拓により、収益性の高い産地づくりを推進する。

- ① 消費者の求める品種の導入や食味を重視した果実生産、消費者が手に取りやすい加工品の開発など、消費者・実需者ニーズに的確に応えられる産地づくりを推進する。
- ② 首都圏の実需者へ働きかけを行い、販売につながるプロモーションを実施して販路拡大を図る。
- ③ 「やまがたフルーツ 150周年」を契機として、果実生産へのこだわりや地域にまつわる「物語」をマスメディアやSNSなどにより発信することで消費拡大を図る。
- ④ 産地直売やふるさと納税の返礼品、eコマース（電子商取引）など、多様な販売チャネルの活用を促進する。
- ⑤ パッケージセンター機能を持つ施設の活用等により、需要に応じた規格や詰め合わせでの出荷を可能にし、生産者の負担軽減と高付加価値化を推進する。

- ⑥ 在来品種や新たな特産果実では、安定的な販売体制を構築するとともに、山形の食文化を活かした加工品の創出を図り、地域ブランドを確立する。

(5) 市場のグローバル化に対応した輸出の促進

人口減少による市場の縮小に加え、国内の生鮮果物の消費量が減少している中で、輸出は拡大傾向にあることから、今後は輸出に戦略的に取り組む必要がある。

県産果実の輸出拡大に向けては、アジア地域を中心に、これまで経済交流の取組みを進める中で、信頼できる輸出パートナーや関係者との人的ネットワークなど経済交流拡大の基盤が築かれてきているため、市場ごとの成果・課題、現地情勢を踏まえた取組みの重点化を図る。

- ① J Aグループや山形県国際経済振興機構と連携し、重点地域を中心として、輸出拡大を図る。
※重点地域：台湾、香港、韓国、ASEAN、北米、欧州、豪州
- ② 輸出先国地域に対応した輸出用防除基準の整備や植物検疫条件への対応に加え、「国際水準 GAP（農業生産工程管理）」や「HACCP（食品衛生管理）」などの国際基準の取得による輸出の加速化に向けた環境整備を進める。
- ③ 県育成の新品種が海外へ流出することがないように、輸出先における侵害のリスクを勘案し、商標や品種登録などの知的財産保護を進める。
- ④ 地理的表示（G I）保護制度への登録など、知的財産の保護制度を活用し、海外での模倣防止や「山形ブランド」のPR・販売促進を図る。
- ⑤ 「やまがた紅王」など、本県オリジナル品種の長距離・長時間輸送に適する技術開発・普及、海外での求評調査など、輸出拡大に向けた取組みを推進する。

(6) 集出荷体制の効率化や施設再整備の推進による流通の改善

多様化する消費者ニーズに対応して細分化されている現在の出荷規格は、選果・箱詰め作業や輸送など流通段階で多大な労力を必要とする。一方で、産地の人手不足やトラックドライバーの労働時間に係る規制強化など、流通段階での労働力が不足しており、集出荷施設・選果場の再編整備や出荷規格の見直しが必要となっている。

また、厳選出荷により本県産果実のブランド力を強化するため、高機能な集出荷・選果施設、貯蔵施設の整備を併せて推進する。

- ① 流通段階の労働力不足に対応するため、地域の集出荷拠点施設の再編、産地連携による混載などを推進する。
- ② 統一規格パレットの導入による荷積み作業の機械化やこれに合わせた出荷規格の見直し・簡素化等により、流通コストの低減を図る。
- ③ ぶどうの貯蔵施設、西洋なしの低温処理・追熟処理施設、りんご及びももの高性能選果システムなどの導入を図り、厳選出荷による高品質果実出荷を促進する。

(7) 農業の多角化や他産業との連携による付加価値の創出

多種多様な果実を生産している果樹産地としての強みを活かし、食品製造業と連携することで付加価値の高い、新たな需要を創出する加工品や地域の特色を活かした加工品の開発を推進する。また、日本ワインの人気の高まりと「果実酒等の製法品質表示基準」の制定により、需要が増大している本県産ワイン用ぶどうなどの加工原料用果実では、加工業者との連携を密にし、需要に応じた品種の導入と安定的な供給を図っていく必要がある。

さらに、果樹生産者の農業所得の確保を図るため、観光産業と連携した新たなサービスの開発や、生産者自ら、加工業や飲食業、農泊を含む観光業の展開など、経営の多角化を推進する。

- ① 規格外品の活用だけでなく、果実由来の「甘み」、「香」や「色素」、あるいは「機能性」を活かした付加価値の高い加工品や、食の簡便化に対応するための「カットフルーツ」や「冷凍フルーツ」などの生産・流通技術を開発する。
- ② 加工原料用果実については、省力的な生産方式の導入による規模拡大や、栽培性・加工適性に優れた原材料の安定生産・供給体制の構築を図る。
- ③ 加工原料用果実の安定的供給と生産者の収益確保にむけて、生産者と加工業者等とのマッチングを図る。
- ④ 観光産業などとの連携、あるいは生産者自らの経営において、「朝摘みさくらんぼ」や「農園ランチ」、「ワインづくり」など、農作業体験+αの新たなサービスの開発を推進し、交流人口の増加を図る。

(8) 環境と調和した持続可能な農業の推進

本県の果実生産は、気候変動による極端な気象の頻発を受けて生産性や品質の低下が課題となり、産地の維持が危ぶまれている。そこで、持続可能な果樹産地を形成するためには、気候変動への対策強化に加えて、環境の負荷低減など気候変動の緩和を進めていく必要がある。本県でこれまで推進してきた特別栽培や有機農業等の環境保全型農業は、みどりの食料システム戦略の実現に向けて、取組みを引き続き支援していく必要がある。

また、消費者が重視する「安全性」の確保や輸出ポテンシャルの向上につながる「国際水準GAP」、「HACCP」などの取組みの普及と認証取得を推進する。なお、導入推進にあたっては、行政、関係団体による指導体制の構築・強化を図りながら、生産者の意欲維持や消費者や、実需者の理解促進を図る。

- ① 安全・安心の確保に向け、農薬の使用基準遵守や、農薬ドリフト防止のため適切な農薬散布を徹底する。
- ② 国のみどりの食料システム戦略*に基づき、化学農薬のみに依存しないIPM(総合的病害虫・雑草防除)等、環境に配慮した果樹農業を推進する。

※みどりの食料システム戦略

農林水産業の生産力向上と持続性維持の両立に向けた技術開発や技術の普及を支援するもの。

- ③ 県産果実の安全・安心を裏付けるため、「国際水準GAP」、「HACCP」などへの生産者の理解醸成を図り、導入・認証取得を推進する。
- ④ 耕畜連携による土づくり、低投入型施肥技術などの開発と普及拡大を推進する。
- ⑤ 消費者や実需者に対し、安全・安心の取組みに関する情報発信、PRを強化することにより、県産果実への安心と信頼感の醸成を図る。

(9) その他の必要な事項

産地のブランド力を高める優れた新品種の開発・育成のほか、品質や収量を向上するための栽培技術や病虫害防除技術の開発、高付加価値化を目指した加工や流通に関する技術開発、さらには機能性に関する研究を進める。

また、果物の栄養・健康機能等についての理解を深めるための学校給食を有効活用した食育や、体験学習の場としての果樹園の活用などにより、本県産果実生産に対する理解を深め、消費拡大を図る。

3 主要品目の振興方針

(1) さくらんぼ

【生産目標】

項目	現状	目標 (R12)	目標設定の考え方
栽培面積 (ha)	2,800	2,450 (88%)	生産者の高齢化により現状の80%程度までの減少が予測されるが、省力的な樹形の導入や規模拡大を進めることで、現状比88%の栽培面積を見込む。
生産量 (t)	11,230	11,000 (98%)	気象災害対策の徹底による生産の安定化、省力的な樹形やスマート技術の導入により反収の向上を図ることで、現状の98%の生産量を見込む。
産出額 (億円)	346	380 (110%)	「山形さくらんぼ」のブランド力強化と、西日本や海外への流通拡大を進めることで現状比110%の産出額を見込む。

※現状（栽培面積：R6、生産量・産出額：R2-6の平均）。（ ）内の数字は、現状との対比值。

【主要品種の栽培面積目標】

品 種 名	令和4年 (現況)		令和12年 (目標年)	
	栽培面積	割合	栽培面積	割合
佐藤錦	2,000ha	68%	1,470ha	60%
紅秀峰	477ha	16%	441ha	18%
山形C12号 (やまがた紅王)	121ha	4%	223ha	9%

【振興方針】

気候変動に負けない強靱で持続可能なさくらんぼ産地づくりに向けて、気象災害対策技術の導入によるさらなる高品質安定生産、大玉新品種「やまがた紅王」のブランド確立、将来の産地構造に対応した効率的な生産方式の導入による生産基盤の強化に、「オール山形」体制で取り組む。

さらに、国内外における競争力強化やインバウンド需要等に対応するため、最先端の技術を駆使した大玉品種の育成に加え、県産さくらんぼの情報発信の強化や輸出拡大により、世界ブランドの確立を目指す。

- ① 気候変動に対応し、さらなる高品質安定生産を実現するため、気象災害対策技術の導入、高温に強い品種の導入を推進する。
 - ・防霜資材・設備（散水氷結法等）の導入を推進するとともに、防風ネットの設置、適正な受粉樹・訪花昆虫の導入、天候や開花状況に応じた人工受粉の実施による受粉環境の向上を図る。
 - ・高温乾燥による結実不良、品質低下の軽減に向け、かん水設備、遮光資材等、高温対策技術の導入を推進する。
 - ・気候変動リスクの軽減や出荷期間拡大、労力分散のために、ハウス栽培の導入を推進

- する。また、「佐藤錦」から「紅秀峰」や「やまがた紅王」等の晩生品種などへの転換を推進し、「佐藤錦」に偏重した品種構成を是正する。
- ・高温下でも着色しやすい良着色品種や高温障害に遭いにくい硬肉品種（「紅秀峰」や「やまがた紅王」等）の導入を推進する。
- ② 生産者の高齢化や労働力不足等に対応するため、効率的な生産方式の導入や品種構成の適正化を推進し、生産基盤を強化する。
- ・作業効率が高く、早期成園化が可能な、Y字・V字・平棚仕立て等の軽労的な仕立て方の導入を推進する。
 - ・作業の省力化、効率化を図るため、スマート技術の活用に向けた実証と栽培方式の最適化を推進する。
 - ・経営規模拡大や新規参入の促進、円滑な園地継承を可能とするため、樹園地継承データベース等を活用した園地のマッチングシステムの構築を図る。
- ③ 「やまがた紅王」は、「佐藤錦」、「紅秀峰」に続く3本目の柱として、生産量拡大とブランド確立に向けた生産対策、流通販売対策を推進する。
- ・「やまがた紅王ブランド化プロジェクト会議」を核として、生産者登録制度による知的財産の保護と県内全域での導入推進を図る。
 - ・高品質大玉生産技術、安定生産技術の開発を進めるとともに、各産地における速やかな普及定着を図る。
 - ・品質基準の遵守、商標登録を活用した高品質果実の提供によって、実需者、消費者の評価を獲得する。
 - ・最上級規格「やまがた紅王 プレミアム」の出荷によって高単価での流通を推進し、ブランドの付加価値向上を図る。
 - ・果肉が硬く、日持ち性に優れる特長を活かして、西日本での流通拡大、アジア地域での輸出拡大を図る。
- ④ 「山形さくらんぼ」のブランド力強化を図るため、厳選出荷を推進するとともに、消費拡大に向けた国内外でのプロモーションを強化する。
- ・出荷規格遵守の取組みを徹底するとともに、市場や販売店等への産地情報の発信とニーズに応じた出荷・販売を実施する。
 - ・首都圏を中心に効果的なセールスプロモーションを実施するとともに、西日本及び地方中核都市への販路拡大に向けたPR活動に取り組む。
 - ・台湾、タイ、マレーシア等の主要輸出国・地域に対して、高級ブランド果実としての定着に向けたプロモーションを展開し、輸出の促進を図る。
- ⑤ 気候変動に対応した良着色性品種や硬肉品種、海外輸出や新たな需要創出に向けたさらなる大玉品種の開発を推進する。
- ⑥ 新興地域（最上地域・庄内地域）における高品質安定生産技術の定着に取り組むとともに、各地域の特色を活かしたブランド力強化対策を推進する。
- ⑦ 受粉樹として導入されている品種の未収穫果実や規格外果実、加工用品種を利用して、食品産業との連携を図り、付加価値の高い商品づくりを推進する。
- ⑧ 国内需要に加え、インバウンド需要への対応を進めるとともに、新たな需要の開拓、交流人口の増加に向け、多様な業態と連携した新たな企画等の創出を図る。

(2) 西洋なし

【生産目標】

項目	現状	目標 (R12)	目標設定の考え方
栽培面積 (ha)	797	645 (81%)	減少が予想されるが、生産性の高い新たな樹形の開発と導入を図るとともに、新植・改植を促進して減少を緩和し、現状比81%の栽培面積を見込む。
生産量 (t)	16,440	13,800 (84%)	老木の更新、新樹形への転換、病害対策によって生産性の向上を図り、現状の84%の生産量を見込む。
産出額 (億円)	63	65 (103%)	高品質安定生産とブランド力強化による販売価格向上により、現状の103%の産出額を見込む。

※現状(栽培面積:R6、生産量・産出額:R2-6の平均)。()内の数字は、現状との対比值。

【振興方針】

「山形ラ・フランス」の地理的表示(GI)保護制度を活用し、食味を重視した「ラ・フランス」の生産・出荷・販売の継続と食べ頃周知の徹底、消費地での効果的なPR等による消費拡大、気候変動に対応した高品質安定生産の徹底によって、本県西洋なし産地のブランド力強化を推進する。

- ① ブランド力強化と販売価格安定化のため、「山形県『ラ・フランス』振興協議会」を核としたオール山形体制による、適正管理、適期収穫、販売開始基準日の遵守等、食味を重視した取組みを強化する。
 - ・樹形改善や適正施肥、適正着果、適正防除等の栽培管理の徹底により、良食味で高品質な果実生産を推進する。
 - ・美味しい「山形ラ・フランス」の出荷・販売に向けて販売開始基準日を設定し、適期収穫や予冷、産地追熟、選果の徹底を「オール山形」体制で推進する。
- ② 気候変動に対応し、高品質安定生産を推進するため、適正な栽培管理や病虫害防除を徹底する。
 - ・安定的な収穫量の確保に向け、凍霜害の発生に対応した着果管理を推進する。
 - ・秋季の高温による果実の熟期遅延に対応するため、果実品質を重視した収穫時期の設定を実施し、高品質果実の生産を推進する。
 - ・輪紋病や胴枯病、シンクイムシ等の重要病虫害への対策を徹底し、商品果率の向上、樹体生育の健全化を推進する。
- ③ 産地の生産基盤を強化するため、生産性向上、効率化に向けた取組みを推進する。
 - ・生産性の向上を図るため、縮間伐や樹高の切り下げによる作業性向上、老木園の改植を推進する。
 - ・生産の効率化に向けて、V字仕立て等の新しい仕立て方の開発と導入を図る。
- ④ GI「山形ラ・フランス」を活用したPR活動や模倣品の防止等により、消費拡大・ブランド力向上・輸出拡大を図る。
- ⑤ 新たな需要を創出するため、食の簡便化に対応したピールカット等の加工技術の普及や新商品の開発を支援する。

(3) りんご

【生産目標】

項目	現状	目標 (R12)	目標設定の考え方
栽培面積 (ha)	1,980	1,530 (77%)	減少が予測されるが、早期成園化可能な生産方式の導入や作業受託の整備により減少を緩和し、現状比77%の栽培面積を見込む。
生産量 (t)	35,600	30,300 (85%)	効率的な生産方式やスマート技術の導入により生産性の向上を図り、現状比85%の生産量を見込む。
産出額 (億円)	97	97 (100%)	市場評価の高い品種の導入やロットの確保、気候変動下でも高品質安定生産が見込める品種の導入推進により、現状並の産出額を見込む。

※現状（栽培面積：R6、生産量・産出額：R2-6の平均）。（ ）内の数字は、現状との対比值。

【振興方針】

高密度栽培など、わい性台木を活用した早期成園化が可能な生産方式の導入によって、労働生産性の向上と規模拡大を図る。併せて、気候変動による災害リスクを低減できる栽培技術の普及と有望品種への転換によって、高品質安定生産を推進し、市場評価の向上を図る。

- ① 食味良好で市場評価の高い品種（系統）や気候変動下でも高品質安定生産が可能な有望品種の導入等により、本県産りんごのブランド力の向上を図る。
 - ・気候変動による着色不良などの生育障害対策として、「紅みのり」などの高温下でも着色良好な品種や「ぐんま名月」などの黄色系品種の導入を推進する。
 - ・晩生品種「ふじ」を主体としながら、消費者ニーズの高い品種構成へ誘導する。
 - ・品種数が多い中生種では、「秋陽」、「シナノスイート」などを重点的に取り組む品種と位置付け、販売ロットや販売期間の拡大を図り、市場評価向上に努める。
- ② 労働生産性の向上を図るため、草刈ロボット等スマート農機の導入、及び共同防除組織等の作業受託組織の整備を推進する。
- ③ 黒星病、腐らん病などの病害対策として、ICTを活用した発生予測に基づく適期防除や物理的・耕種的防除を組み込んだ総合的防除対策を強化する。
- ④ 園地の流動化や優良園地の円滑な継承を促進するため、各地域の産地協議会と農地中間管理機構の連携による取組みを強化する。
- ⑤ 既存の主要輸出国・地域に加え、国、地域の市場ニーズや輸出基準等を踏まえた販路開拓を行い、輸出拡大を図る。
- ⑥ 収益性の向上を図るため、規格外品や下位等級品では、食品製造業と連携した付加価値の高い加工食品の開発等を推進する。

(4) ぶどう

【生産目標】

項目	現状	目標 (R12)	目標設定の考え方
栽培面積 (ha)	1,390	1,070 (77%)	現状の6割程度までの減少が予測されるが、大粒品種の導入や、「デラウェア」のワイン用有核栽培への転換の推進等により減少を緩和し、現状比77%の栽培面積を見込む。
生産量 (t)	14,380	11,900 (83%)	栽培技術の高位平準化や優良な赤・黒系大粒品種の導入による単収の向上を図り、現状比83%の生産量を見込む。
産出額 (億円)	146	149 (102%)	大粒品種の増加や栽培技術の向上による高品質化によって単価の向上を図り、現状並みの産出額を見込む。

※現状（栽培面積：R6、生産量・産出額：R2-6の平均）。（ ）内の数字は、現状との対比值。

【振興方針】

「シャインマスカット」をはじめとする大粒種の品質の高位平準化や、省力技術及びスマート農機の導入による規模拡大に取り組む。併せて省力栽培が可能で需要拡大が期待できるワイン用ブドウの導入により、産地拡大に取り組む。

- ① 労働生産性の向上に向けて、追従式作業台車や草刈ロボット等、スマート農機の導入を推進する。
- ② 生産基盤を強化するため、既存園地の改植とともに、農地の集積を図り、生産者の規模拡大を推進する。
- ③ 「シャインマスカット」をはじめとした大粒種ぶどうのブランド力の強化を図る。
 - ・既存品種から優良な大粒種への転換や新植、新興地域への導入推進による産地拡大を推進する。
 - ・品質の高位平準化や規模拡大に向けて、省力的かつ高品質生産が可能な技術の普及・定着を推進する。
 - ・県内全域での出荷基準の統一による厳選出荷、遅場産地を生かした長期貯蔵による冬季出荷の推進によって、ブランド力の強化を図る。
 - ・皮ごと食べられ、高温条件下でも着色良好な赤系の大粒品種の開発を推進し、本県産大粒ぶどうのブランド力の強化を図る。
 - ・収益性の向上を図るため、直売所や輸出等の多様なチャンネルでの販売を推進する。
- ④ 日本一の生産量を誇る「デラウェア」の産地維持を図る。
 - ・これまで築き上げてきた「デラウェア生産量日本一」のブランド力を活かし、生食用に加え、市販加工品の開発・販売により、年間を通して全国に情報発信していくとともに、産地の活性化を図る。
 - ・省力的な有核栽培（ワイン用）への転換や、軽労的な短梢栽培技術の導入を推進する。
- ⑤ 軽労的な栽培が可能なワイン用品種導入による規模拡大や、ワイン用品種への転換により、離農抑制を図る。

(5) もも

【生産目標】

項目	現状	目標 (R12)	目標設定の考え方
栽培面積 (ha)	716	780 (109%)	新たな仕立て方や優良品種の導入を図ることで、現状対比109%の栽培面積を見込む。
生産量 (t)	9,258	11,100 (120%)	面積の増加に加え、気候変動に対応した良着色性品種、軽労的な栽培方法や加工用品種の導入により生産性の向上を図り、現状比120%の生産量を見込む。
産出額 (億円)	48	65 (135%)	リレー出荷体制の構築と販売ロットの拡大により価格の向上を図り、現状比135%の産出額を見込む。

※現状（栽培面積：R6、生産量・産出額：R2-6の平均）。（ ）内の数字は、現状との対比值。

【振興方針】

「あかつき」、「川中島白桃」を中心に、7月下旬～9月中旬までのリレー出荷を可能とする品種の導入を推進するとともに、基本栽培管理技術の徹底やせん孔細菌病対策の徹底による生産性向上を図る。

- ① 中生品種「あかつき」と晩生品種「川中島白桃」を核として、高温下でも着色良好な品種等、その前後を補完する優良品種の導入を積極的に推進する。
- ② 労働生産性の向上に向けて、省力的な管理が可能な加工専用品種の導入を図る。
- ③ 好適樹相への誘導、適正な着果管理による大玉生産や着色促進、適正な病害虫防除、適期収穫、健全な樹体育成に向けた排水・防風対策等の基本管理を励行し、高品質果実生産を推進する。特に、せん孔細菌病については、物理的・耕種的防除を組み込んだ総合的防除方法の普及を図る。
- ④ 栽培面積の拡大を円滑に進めるため、ハイブリッド仕立てをはじめとした、軽労的で、樹体の凍害等の気象災害に対応可能な栽培方法や剪定方法を推進する。
- ⑤ リレー出荷と販売ロット拡大の推進により、本県産もものブランド確立を図る。
- ⑥ 新たな需要獲得に向けて、輸出を推進し、輸出に当たっては対象国の農薬基準の遵守やシンクイムシ類などの混入防止などを徹底する。

(6) すもも

【生産目標】

項目	現状	目標 (R12)	目標設定の考え方
栽培面積 (ha)	243	230 (95%)	減少傾向にあるが、先行投資型果樹団地の整備を核として面積の維持を図り、現状比 95%の栽培面積を見込む。
生産量 (t)	1,898	1,960 (103%)	受粉樹の導入などの結実確保対策の徹底と、優良な大玉品種の導入によって反収の向上を図り、現状比 103%の生産量を見込む。
産出額 (億円)	10	13 (130%)	長期出荷体制の普及拡大、生産量の増加により現状比 130%の産出額を見込む。

※現状（栽培面積：R6、生産量・産出額：R2-6の平均）。（ ）内の数字は、現状との対比值。

【振興方針】

担い手の確保・育成に向け、先行投資型果樹団地の形成を推進する。また、優良品種を導入した7～10月の長期出荷体制の普及拡大を進めるとともに、結実確保対策の徹底による安定生産を推進し、市場評価の向上と生産拡大を図る。

- ① 効果的な受粉樹の選定・導入等の受粉環境の改善、結実確保対策の徹底により、気候変動に左右されない安定生産を推進する。
- ② 生産性の向上のため、老木の改植を促進する。
- ③ 担い手の確保・育成や円滑な園地継承、老木園の若返りに向けて、先行投資型果樹団地の形成を推進する。
- ④ 本県産すもものブランド化を図るため、「大石早生」、「ソルダム」、「太陽」、「秋姫」を中心としながら、本県民間育成品種等の優良な大玉品種を導入し、7～10月までの長期出荷体制の普及拡大を推進する。
- ⑤ 流通・小売段階での日持ち性を考慮しながら、食味を重視した収穫・出荷を推進し、本県産すももの評価向上に努める。
- ⑥ 黒斑病、シンクイムシ類などの主要病害虫に対しては、物理的防除や交信かく乱剤の使用など、IPM（総合的病害虫・雑草防除）に基づいた化学農薬だけに依存しない病害虫防除体系を推進する。

(7) かき

【生産目標】

項目	現状	目標 (R12)	目標設定の考え方
栽培面積 (ha)	683	490 (72%)	低樹高栽培やスマート農機の導入による労働生産性の向上や、収益性の向上を図ることで減少を緩和し、現状比72%の栽培面積を見込む。
生産量 (t)	6,130	4,460 (73%)	園地の更新や気象災害対策の徹底、大玉生産技術の普及によって反収の向上を図り、現状比73%を見込む。
産出額 (億円)	14	12 (86%)	大玉生産の推進により単価の向上を図り、現状比86%の産出額を見込む。

※現状（栽培面積：R6、生産量・産出額：R2-6の平均）。（ ）内の数字は、現状との対比值。

【振興方針】

気象災害対策技術の導入、温暖化の進展を見据えた甘柿の導入や虫害対策の徹底を推進する。また、V字仕立て等の低樹高仕立てやスマート農機の導入等により労働生産性の向上を図る。さらに、大玉生産技術の普及、干し柿の生産拡大により、収益性の向上を図る。

- ① 気候変動に左右されない安定生産を図るため、降霜の被害程度に応じた着果管理技術の普及、降雹対策の徹底を推進する。
- ② 温暖化の進展を見据えて「太秋」や「輝太郎」等の甘柿の導入を推進するとともに、温暖化に伴い発生が拡大している虫害対策を徹底する。
- ③ 労働生産性の向上や規模拡大に向けて、V字仕立てなど低樹高で軽労的な樹形やスマート農機の導入を推進する。
- ④ 作業労力の分散を図るため、「平核無」を中心としながら、「刀根早生」等の優良早生品種の導入を進める。
- ⑤ 生産性の向上を図るため、老木の改植を促進する。
- ⑥ 防除や剪定などの共同作業組織やサービス事業体の育成と、既存組織の取組みの強化を図る。
- ⑦ 担い手の確保に向け、出荷団体生産部会や農業委員会等が連携した優良園地継承の取組みを推進する。
- ⑧ 収益性の向上に向けて、生食出荷が難しい果実の加工利用（干し柿等）を推進する。
- ⑨ 干し柿の生産拡大に向けて、加工コスト低減技術や原料果実の貯蔵技術の検討を行うとともに、新規生産者の掘り起こしと高品質生産を支援する。
- ⑩ 環境にやさしい柿産地づくりに向けて、化学肥料を低減した大玉生産施肥技術の実証と普及を行うとともに、環境に配慮した栽培体系を推進する。

(8) 日本なし

【生産目標】

項目	現状	目標 (R12)	目標設定の考え方
栽培面積 (ha)	100	75 (75%)	栽培面積は減少傾向だが、収益性の向上と安定生産を推進して担い手の確保を図り、現状比75%の栽培面積を見込む。
生産量 (t)	1,346	1,040 (77%)	老木化の改植や気象災害対策の徹底により生産性の向上を図り、現状比77%の生産量を見込む。
産出額 (億円)	5	5 (100%)	優良品種の導入と有望品種の導入により価格の向上を図り、現状並みの産出額を見込む。

※現状（栽培面積：R6、生産量・産出額：R2-6の平均）。（ ）内の数字は現状との対比値

【振興方針】

老木化による生産性の低下と主要品種の「幸水」や「豊水」の価格低迷、生産者の高齢化によって栽培面積が減少している。老木の更新とそれに伴う優良品種の導入により、高品質安定生産を推進し、庄内地域を中心にブランド力の強化を図る。

- ① 安定生産を図るため、多目的防災網等の気象災害対策や人工受粉による結実確保対策を推進する。
- ② 作業労力の分散に向けて、「幸水」に偏重した品種構成を見直し、市場評価の高い「あきづき」や「南水」など、新たな優良品種の導入を推進する。
- ③ 優良園地の円滑な継承を促進するため、各地域の産地協議会と農地中間管理機構の連携による取組みを強化する。
- ④ 収益性の向上を図るため、市場出荷に加え、産地直売や観光果樹園など多様な販売チャネルの活用を推進する。
- ⑤ 観光イベントなどと連携した有利販売や地場消費の拡大を推進するため、情報発信を強化する。

(9) 山形らしい多彩な特産果樹

本県では、豊かな自然条件を活かし、多彩な品目の果樹が栽培されている。これらの特産果樹については、それぞれの特性を生かしながら生産振興を図っていく。

- ①すだちなどの香酸かんきつは、地域の観光産業や飲食業との連携により、新たな需要開拓と地域活性化につなげる。
- ② ブルーベリー、ラズベリー、いちじくなどは、観光果樹園や産地直売など多様な販売チャネルにより収益性を確保する。
- ③ 山ぶどう、あけび、さるなしなどは、山形の食文化を活かした加工品の創出や情報発信により付加価値の向上を図るとともに、安定的な販売体制を構築する。

4 栽培に適する自然条件に関する基準

高品質な果実生産を確実に図る観点から、果樹栽培に適する地域における平均気温、冬期の最低極温、低温要求時間及び降水量に関する基準、並びに気象被害を防ぐための基準を果樹の種類ごとに設定する。

なお、やむを得ず基準を満たさない地域において栽培する場合には、あらかじめ十分な対策を講じ、気象被害の発生を防止し、高品質な果実生産が確保されるよう努めることが重要である。

区分 樹種	平均気温		冬期の 最低極温	低温 要求時間	気象被害を 防ぐための基準	
	年	4/1～ 10/31				
さくらんぼ	7℃以上 15℃以下	14℃以上 21℃以下	-15℃以上	1,400 時間 以上	枝折れや樹の倒壊を防ぐため、最大積雪深が概ね 2m 以下であること。 花器・幼果の障害を防ぐため、蕾から幼果期において降霜が少ないこと。	
西洋なし	6℃以上 14℃以下	13℃以上	-20℃以上	1,000 時間 以上	枝折れや樹の倒壊を防ぐため、最大積雪深が概ね 2m 以下であること。 花器・幼果の障害を防ぐため、蕾から幼果期において降霜が少ないこと。	
りんご	6℃以上 14℃以下	13℃以上 21℃以下	-25℃以上	1,400 時間 以上	枝折れや樹の倒壊を防ぐため、平年の最大積雪深が概ね 2m(わい化栽培においては概ね 1.5m)以下であること。 花器・幼果の障害を防ぐため、蕾から幼果期において降霜が少ないこと。	
ぶどう	7℃以上	14℃以上	-20℃以上 (欧州種については -15℃以上)	「巨峰」については 500 時間 以上	枝枯れや樹の倒壊を防ぐため、凍害及び雪害を受けやすい北向きの傾斜地での植栽は避けること。 欧州種については、4～10 月の降水量が 1,200mm 以下。	
もも	9℃以上	15℃以上	-15℃以上	1,000 時間 以上	枝折れや樹の倒壊を防ぐため、最大積雪深が概ね 2m 以下であること。 花器・幼果の障害を防ぐため、蕾から幼果期において降霜が少ないこと。 病害を防ぐため、強風を受けやすい園地での植栽は避けること。	
かき	渋柿	10℃以上	16℃以上	-15℃以上	—	枝折れや樹の倒壊を防ぐため、最大積雪深が概ね 2m 以下であること。 枝折れを防ぐため、新梢伸長期において強風を受けやすい園地での植栽は避けること。 新梢の枯死を防ぐため、発芽・展葉期において降霜が少ないこと。
	甘柿	13℃以上	19℃以上	-13℃以上	800 時間 以上	
すもも	7℃以上	15℃以上	-18℃以上	1,000 時間 以上 (台湾系品種を除く)	枝折れや樹の倒壊を防ぐため、最大積雪深が概ね 2m 以下であること。 花器・幼果の障害を防ぐため、蕾から幼果期において降霜が少ないこと。	
日本なし	7℃以上	13℃以上	-20℃以上	「幸水」については 800 時間 以上	枝折れや樹の倒壊を防ぐため、最大積雪深が概ね 2m 以下であること。 花器・幼果の障害を防ぐため、蕾から幼果期において降霜が少ないこと。	

(注) 1 果樹農業振興基本方針（令和 7 年 4 月 30 日、農林水産省）より抜粋。

2 一般に普及している品種及び栽培方法によるものとする。

3 低温要求時間とは、当該地域の気温が 7.2℃以下になる期間の延べ時間である。

4 上記の基準については、最近 20 年間の気象観測記録により評価する。

5 果樹園経営の指標

(1) 目標とすべき 10 a 当たりの収穫量及び労働時間

		成園 10 a 当たりの 収穫量 (kg)	成園 10 a 当たりの 労働時間 (時間)	労働時間当たり の収穫量 (kg/時間)	摘 要
さくらんぼ		600	448	1.3	雨除け栽培
		700	462	1.5	Y字仕立て、雨除け栽培
西洋なし		3,500	226	15.5	
りんご		3,000	204	14.7	普通樹形
		4,000	105	38.0	新しい化栽培、加工
なつぽう	小粒種	1,600	363	4.4	無加温施設栽培、 無核化栽培、長梢剪定
	大粒種	1,600	312	5.1	雨除け栽培 無核化栽培、短梢剪定
	ワイン用	1,200	145	8.3	露地栽培、垣根仕立て
もも		3,250	175	18.5	
かき		2,800	89	31.4	省力樹形 (樹体ジョイント仕立て)
すもも		2,000	184	10.9	
日本なし		5,000	204	24.5	省力樹形 (樹体ジョイント仕立て)

- (注) 1 果樹農業振興基本方針 (R2. 4. 30 農林水産省) 及び第 4 期山形県農林水産業元気創造戦略営農類型経営指標 (令和 3 年 3 月) より抜粋 (一部修正)。
- 2 さくらんぼは「佐藤錦」、りんごは「ふじ」、西洋なしは「ラ・フランス」、ぶどうのうち小粒系は「デラウェア」、大粒系は「シャインマスカット」、ももは「あかつき」、かきは「平核無」、すももは「秋姫」、日本なしは「幸水」によるものとする。
- 3 10 a 当たり生産量及び労働時間は成園に係るものである。
- 4 労働時間については、出荷 (選別・包装・荷造りの作業や、共選場・共販場への搬出) に係る時間を算入している。

(2) 地域を牽引する競争力の高い果樹経営体モデル

営農類型	経営規模	販売金額・農業所得等	主な留意事項等
さくらんぼ+もも+りんご 【果樹専作】	経営規模 = 2.4ha さくらんぼ = 0.6ha もも = 1.0ha りんご = 0.8ha	主たる経営者の農業所得 8,159 千円 〔◇販売金額 31,704 千円 ◇農業所得 16,318 千円 ・基幹的従事者 2 人 ◇支払労務費 2,155 千円 ・補助的従事者 10 人〕	●スマート農業技術(ロボット草刈り機) ●省力・軽労化新技術(さくらんぼY字仕立、りんご半わい化開心形仕立て) ○さくらんぼ5割、もも3割、りんご3割を直売・贈答用で販売 ○主な適応地域:村山、置賜
西洋なし+ぶどう+さくらんぼ 【果樹専作】	経営規模 = 1.8ha 西洋なし = 1.0ha ぶどう(デラウェア) = 0.2ha (大粒系) = 0.3ha さくらんぼ = 0.3ha	主たる経営者の農業所得 8,775 千円 〔◇販売金額 31,891 千円 ◇農業所得 17,550 千円 ・基幹的従事者 2 人 ◇支払労務費 1,484 千円 ・補助的従事者 8 人〕	●省力・軽労化新技術(さくらんぼY字仕立) ○西洋なし3割、大粒系ぶどう5割、さくらんぼ5割を直販・贈答用で販売 ○主な適応地域:村山、置賜
ぶどう+もも+りんご 【果樹専作】	経営規模 = 2.1ha ぶどう(大粒系) = 0.6ha もも = 0.9ha りんご = 0.6ha	主たる経営者の農業所得 9,823 千円 〔◇販売金額 32,839 千円 ◇農業所得 19,646 千円 ・基幹的従事者 2 人 ◇支払労務費 894 千円 ・補助的従事者 4 人〕	●スマート農業技術(ロボット草刈り機) ●省力・軽労化新技術(りんご半わい化開心形仕立て) ○ぶどう5割、もも3割、りんご3割を直売・贈答用で販売 ○主な適応地域:村山、置賜
さくらんぼ+ぶどう+水稲 【果樹+水稲】	経営規模 = 2.1ha さくらんぼ = 0.3ha ぶどう(デラウェア) = 0.3ha (大粒系) = 0.3ha 水稲 = 1.2ha	主たる経営者の農業所得 5,005 千円 〔◇販売金額 18,824 千円 ◇農業所得 10,009 千円 ・基幹的従事者 2 人 ◇支払労務費 974 千円 ・補助的従事者 7 人〕	●省力・軽労化新技術(さくらんぼY字仕立) ○さくらんぼ5割、大粒系ぶどう5割を直販・贈答用で販売 ○水稲は共同乾燥調製施設利用。主要機械は4戸共同利用 ○主な適応地域:村山、置賜
さくらんぼ+水稲+なす+飼料用米 【果樹+水稲+野菜】	経営規模 = 4.8ha さくらんぼ = 0.3ha 水稲 = 2.8ha なす = 0.2ha 飼料用米(直播) = 1.5ha	主たる経営者の農業所得 5,532 千円 〔◇販売金額 13,332 千円 ◇農業所得 5,532 千円 ・基幹的従事者 1 人 ◇支払労務費 1,122 千円 ・補助的従事者 3 人〕	●省力・軽労化新技術(さくらんぼY字仕立) ○さくらんぼ5割を直販・贈答用で販売 ○水稲、飼料用米は共同乾燥調製施設利用。主要機械は3戸共同利用 ○主な適応地域:村山、置賜
さくらんぼ+りんご+水稲+飼料用米 【果樹+水稲】	経営規模 = 5.1ha さくらんぼ = 0.2ha りんご = 0.4ha 水稲 = 3.0ha 飼料用米(直播) = 1.5ha	主たる経営者の農業所得 5,338 千円 〔◇販売金額 12,945 千円 ◇農業所得 5,338 千円 ・基幹的従事者 1 人 ◇支払労務費 641 千円 ・補助的従事者 2 人〕	●スマート農業技術(りんごロボット草刈り) ●省力・軽労化新技術(さくらんぼY字仕立、りんご半わい化開心形仕立て) ○さくらんぼ5割、りんご3割を直販・贈答用で販売 ○水稲、飼料用米(はえぬき)は共同乾燥調製施設利用。主要機械は2戸共同利用 ○主な適応地域:村山、置賜

資料：第4期山形県農林水産業元気創造戦略営農類型経営指標（令和3年3月）より抜粋（一部修正）

主な留意事項等の●は、スマート農業技術や省力・軽労化技術等の新技術を導入

6 高温障害及び対策技術

品目	高温障害	発生の原因	症状	対策技術の例	留意事項
さくらんぼ	花芽形成異常	花芽分化期の高温（7月中旬～9月上旬）	花芽分化の異常により、複数の雌ずいが形成（双子果）	・遮光資材による樹冠の被覆	—
	うるみ症状	収穫期の高温	果肉が水浸状になり、褐変する過熟症状	・反射シートの除去、種類の検討 ・遮光資材による樹冠の被覆 ・過度の葉摘みを控え、適期収穫を徹底 ・かん水、散水	果肉の硬い品種では発生しにくい
りんご	日焼け	果実肥大期～収穫期の高温（7～9月）	果皮やその下の果肉組織の一部が変色	・遮光資材による樹冠の被覆 ・葉取らず栽培の実施 ・かん水による樹体の水ストレスの緩和 ・細霧冷房による果実温度の低下	気温 35℃以上で発生リスクが増大
	着色不良	着色期～収穫期の高温（8～11月）	着色系品種：果皮の着色が阻害され、本来の着色に至らない状態	・優良着色性系統や品種、黄色品種の利用 ・適正な窒素施肥量の励行	—
ぶどう	日焼け	果実肥大期～収穫期の高温、高温・少雨（6～9月）	果皮やその下の果肉組織の一部が変色	・遮光資材による樹冠及び果実の被覆 ・新梢配置による直射日光の緩和 ・細霧冷房による果実温度の低下	—
	着色不良	果実肥大期～収穫期の高温（6～9月）	着色系品種：果皮の着色が阻害され、本来の着色に至らない状態	・環状剥皮 ・植物成長調節剤の利用 ・優良着色性品種や黄緑色品種の利用 ・着房数又は着粒数を制限（巨峰）	「グロースクローネ」は着色性に優れる
もも	果肉水浸状・褐変	夏の高温、収穫前の多雨	果肉の一部が水浸状になり褐変する一種の過熟症状	・適期収穫の徹底 ・機能性果実袋、透湿性マルチシートの利用	—
かき	日焼け	果実肥大期～収穫期の高温	果皮やその下の果肉組織の一部が変色	・樹冠の被覆又は果実の被覆 ・かん水による樹体の水ストレスの緩和 ・着果位置の工夫	—
	着色不良	着色期の高温（8～10月）	果皮の着色が阻害され、本来の着色に至らない状態	・適正な整枝剪定、着果、施肥管理 ・かん水や土壌改良	—
日本なし	（煮え果）日焼け	果実肥大～収穫期の高温・乾燥（7～9月）	果皮直下の果肉が褐変	・遮光資材による樹冠の被覆 ・かん水による樹体の水ストレスの緩和	—
	コルク状障害	果実肥大期～収穫期の高温・乾燥（8～10月）	果肉の維管束部分に乾いた褐色えそ斑点が発生	・適切な着果管理 ・土壌の延期バランスの適正化 ・エテホン散布 ・樹上散水による高温の抑制 ・土壌深耕	—
	発芽不良	冬季の高温	長果枝の発芽・開花遅延、芽枯れ、枝枯れ	・施肥や堆肥散布の時期を春に変更 ・土壌改良 ・花芽が得やすい枝管理 ・発芽促進剤の利用	—

（注）果樹農業振興基本方針（R7.4.30 農林水産省）より抜粋

参 考 资 料

1 奨励品種、優良品種、特定・試作品種一覧

(令和8年3月24日現在)

作 目 名		奨 励 品 種	優 良 品 種	特 定 ・ 試 作 品 種
りんご		ふじ	昂林	王林
		つがる	秋陽	シナノゴールド
			シナノスイート	紅みのり*
				錦秋*
				はるか*
ぶどう	生食用	デラウェア	スチューベン	安芸クイーン
		巨峰	高尾	ロザリオピアンコ
		ピオーネ		サニールージュ*
		シャインマスカット		クイーンニーナ*
	加工用		マスカットベリーA	
			メルロ シャルドネ	
なし	西洋なし	ラ・フランス	バラード	バートレット
			シルバーベル	マルグリット・マリーラ
			オーロラ	メロウリッチ
	日本なし		幸水	あきづき*
			豊水	南水*
				甘太*
もも	生食用	川中島白桃		ゆうぞら
		あかつき		黄金桃
				だて白桃*
				美晴白桃
				まどか
				さくら白桃*
			青空むすめ*	
加工用		大久保	もちづき	
おうとう		佐藤錦	ナポレオン	南陽
		紅秀峰	紅さやか	紅てまり*
		山形C12号 (やまがた紅王)		紅きらり*
				紅ゆたか*
かき		平核無	刀根早生	甘秋*
うめ			甲州最小	豊後
			白加賀	谷沢梅
くり			丹沢	ぼろたん*
			筑波	
すもも			大石早生	太陽
			ソルダム	紅りょうぜん*
			秋姫	貴陽*
				恋花火*
				サンセプト*
				サンルージュ*
				サマーエンジェル*
		秋さやか*		

注1)ピオーネは無核栽培とする。

注2) 特定品種: 特定の地域や用途を限定すれば優良と認められる品種、または労力分散及び出荷時期の面から補完的に組合せる品種。

試作品種: 試験研究機関等における成績が優良で、今後の普及が見込まれるが、さらに適応性、経済性の検討を要する試作的品種(*印)。

2 本県における果樹の来歴

(1) さくらんぼ

さくらんぼの栽培は、明治8年内務省勸業寮より苗木の交付を受け、山形市、米沢市等で試作したのが栽培の始まりといわれている。

当時、全国的に試作されたが、開花期の霜害と収穫期の降雨による裂果等のためほとんどが失敗し、霜害と台風の被害が比較的少ない本県のみが好成績をあげていた。

その後、初夏にさきがけて収穫される果物としての商品価値が認められ、次第に栽培が普及した。明治18年、同41年、大正13年には諸外国より新品種を導入して、県立農事試験場で指定試験等が行われ、新品種の普及に努めた結果、栽培面積がしだいに増加していった。

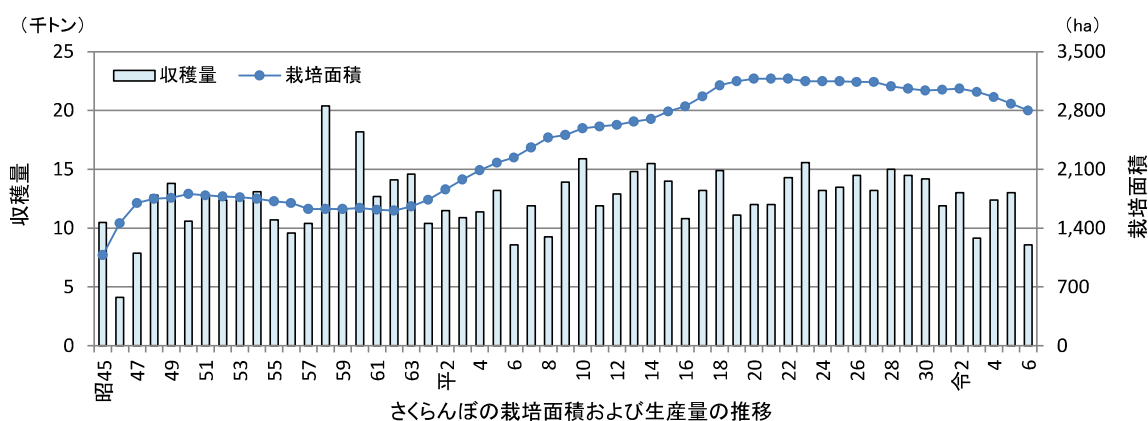
第2次世界大戦前の栽培面積は明治33年には29.9ha程度であったが、明治36年に奥羽本線が新庄まで開通し、鉄道による長距離輸送が可能となったことで、急激に栽培面積が増加した。明治44年には79.4ha、昭和8年には324.0haとなり、戦前最高の2,146tの生産量をあげるようになった。

第2次世界大戦中には食糧増産のための強制伐採が行われ、その後、伐採による生産量の落ち込みが回復するまでには時間がかかったが、昭和31年によく戦前並みに回復し、加工工場の増設とともに、この頃から生産量が急増した。

戦後、本県のさくらんぼは、加工用を主体に栽培面積が増加したが、缶詰需要が落ち込んでいった昭和40年代から生食向けの比率が徐々に高まり、昭和63年頃には、それまで中心品種であった「ナポレオン」よりも、「佐藤錦」の栽培面積が多くなった。また、昭和50年代頃から雨除け栽培が本格化し、着色、食味に優れ、生食に適した完熟さくらんぼの生産が可能になったことや、雨除け施設の普及拡大に伴って、「佐藤錦」の栽培面積がさらに増加した。

昭和53年から米国产、57年からカナダ産、60年からニュージーランド産のさくらんぼの輸入が解禁となり、平成4年からは輸入期間の制限も撤廃された。国外との競合が懸念されたものの、鮮紅色に完熟した食味の良い国産さくらんぼの方が日本人の嗜好に合っていることもあり、赤黒い外国産さくらんぼと差別化された高級果物としての評価が定着している。

近年は、「紅秀峰」等を中心としたさくらんぼの輸出が増えており、海外（台湾、香港等）でも高く評価されている。さらに、令和2年3月には「やまがた紅王（品種名：山形C12号）」が品種登録され、輸出拡大も視野に入れた「佐藤錦」と「紅秀峰」に続く品種として、県産さくらんぼのさらなるブランド力の強化の一翼を担うものと期待されている。



(2) 西洋なし

西洋なしの栽培は、明治8年にりんご等とともに内務省勸業寮から苗木が交付され、試作したのが始まりといわれている。

導入当初は追熟に関する知識がなく、加えて西洋なし特有の風味に慣れていないこともあって面積が増加せず、明治44年の生産量は8t程度であった。

当時の中心品種は「バートレット」、「フレミッシュビューティ」等で、大正7、8年両年の干ばつによる米の不作があつて以降、屋代村(現高島町屋代地区)を中心に西洋なしの新規植栽が進んだ。中心品種「バートレット」の新植に加え、その受粉樹として「ラ・フランス」等が導入された。

さらに、昭和10年の記録的な豪雪により日本なしで壊滅的な雪害が発生したことに伴い、西洋なしへの転換が一気に進んだ。また、昭和9年の冷害凶作の対策として、農村工業として缶詰工場が整備されてきており、西洋なし缶詰の英国向け輸出が好成績であったため、高島町屋代地区等で生産が急激に増加し、昭和17年には生産量が3,760tとなった。

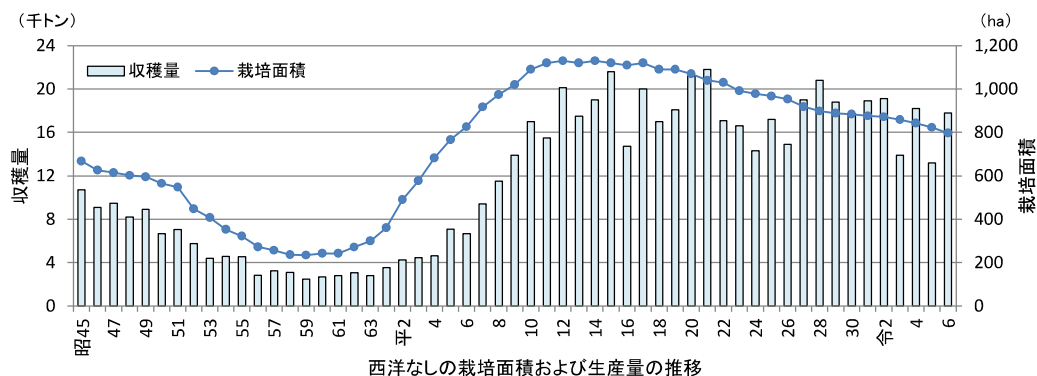
第2次世界大戦中の食糧増産に伴う強制伐採は、水田に盛土をして栽培している西洋なしに特に圧力が強かった。西洋なしは、果実が結実するまで時間がかかることもあり、昭和30年代に入って、ようやく戦前と同レベルの生産状況まで回復した。

戦後は加工、生食とも需要が多く新植が著しかったが、昭和37年頃より価格が不安定となり、さらに、昭和40年代になると缶詰需要の低迷により栽培面積は減少の一途を辿り、昭和50年代の栽培面積は200haを下回った。

一方で、「バートレット」の価格が低迷する中、一部の生産者が食味の良い「ラ・フランス」を生食用として出荷していたものが高値で販売されていたことから、昭和60年代に入ると新植が増加し、平成元年に360haであった栽培面積は、平成13年には1,130haまで急激に拡大した。西洋なしの栽培面積の急激な増加は全国的なもので、平成元年に890haであった栽培面積は平成13年に1,950haまで増加している。

平成10年以降は全国的に出荷量が急増していく一方で、食べ頃が判断しにくいという「ラ・フランス」の特徴から消費が伸びず、販売価格は徐々に低迷した。また、他樹種への更新、高齢化等により、栽培面積は徐々に減少している。

なお、平成20年以降は、それまでの消費宣伝の成果として、西洋なしの食べ方が消費者の間に徐々に浸透してきたことや、平成25年から設定した販売開始基準日等の食味を重視した出荷・販売の取組みにより、販売価格が持ち直してきている。さらに、令和2年には「山形ラ・フランス」が地理的表示(GI)保護制度に登録され、さらなるブランド力の向上が期待されている。



(3) りんご

りんごの栽培は明治8年、内務省勸業寮より苗木の交付を受け、試作したのが始まりといわれている。その後、年々栽培面積は増加し、生産量は明治29年には1,100t、大正3年には、1,590tと増加した。しかし、大正中期以降は病害虫、特にリンゴワタムシの被害により作柄が振わず、防除技術が定着する昭和10年頃まで生産量は低迷した。

その後、栽培技術、防除技術の進歩により生産は上向きとなったが、第2次世界大戦中の食糧増産に伴う強制伐採により、栽培面積は減少した。

戦後は経済の復興とともに果物に対する需要の増大から、昭和30年代には「国光」と「紅玉」等を基幹品種として急速な増植が図られ、昭和40年の栽培面積は3,960haに達した。

しかし、全国のりんご生産が過剰となり、収益性も低下したことから、本県のりんご栽培も減少に転じ、昭和45年には3,490haとなった。その後、より食味の良いデリシャス系の品種や「ふじ」への更新によって栽培面積の急激な減少に歯止めが掛かり、3,500ha台で推移した。

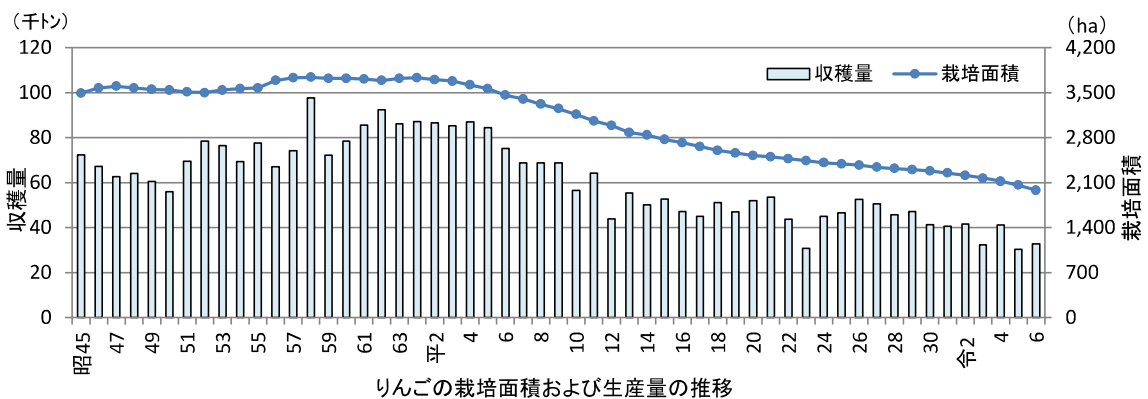
昭和50年代には国営総合農地開発事業（パイロット事業）による新たなりんご団地の造成や、50年代後半のわい化栽培の普及、水田利用再編対策事業による水田への新植等によって栽培面積は3,700ha台に増加した。

また、昭和40年代前半まではりんご栽培は有袋栽培が一般的であったが、昭和46年、全国に先駆けて朝日町に「無袋ふじ研究会」が発足し、県園芸試験場の協力のもと無袋栽培の技術が確立し、現在の「ふじ」栽培の基礎が確立された。

なお、この間各種の栽培技術、病害虫防除技術の進歩により、良質の果実が増産され、同時にスピードスプレーヤーなどの高性能省力作業機や大型共同選果施設の導入により、大幅な省力化が図られるようになった。

平成9年になると、りんご生産の過剰感から価格が暴落し、このことをきっかけに、農林水産省では、りんごの価格低下の際に補てん金を支払う制度である「果樹経営安定制度」を平成13年からスタートさせた。この制度は、平成19年には「果樹経営支援対策事業」となり、それまでの「価格下落時の補てん金支払い」から「優良品種への更新による所得確保や園内道の整備等による生産の効率化」へと政策が移行した。

近年は、「ふじ」、「シナノスイート」等を中心に輸出も増加しており、海外（台湾、香港等）でも高く評価されている。



(4) ぶどう

ぶどう栽培の歴史は古く、南陽市では江戸時代初期より、また、鶴岡市西荒屋（旧山添村）では江戸時代中期より「甲州種」が植えられていたことが石碑等に記されており、明治初期にはこれらの地域はかなりの産地となっていたようである。

明治20年頃、内務省勸業寮を通じ欧米から様々な品種が導入されたが、南陽市（旧赤湯町）では「ブラックハンプルグ」、「マスカットハンプルグ」などの欧州種が好成績をあげ、次第に増殖されて全国屈指の欧州種の栽培産地として発達した。

その後「コンコード」が導入され、明治25年頃には南陽市でぶどう酒の醸造がはじめられた。明治40年頃米国種の「デラウェア」、「キャンベルアーリー」などが導入され、栽培が容易であるため、その後はこれらの品種が主体となった。

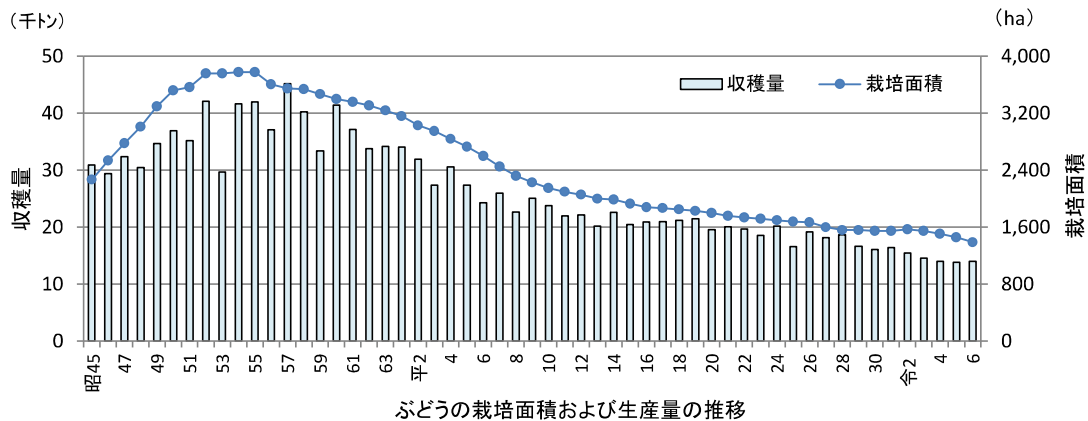
大正5年頃にフィロキセラ（ブドウネアブラムシ）が大発生し栽培面積の増加が停滞したが、その後抵抗性台木を用いた苗木の普及により生産が安定し、大正10年以降は栽培面積が増加していった。

昭和30年以降生食向けの需要が増加するにつれ、生産量は年々増加し、特にジベレリン処理による種なしぶどうとして「デラウェア」の需要が高まった。昭和40年代後半には、国営総合農地開発事業（パイロット事業）での団地造成などで急激に面積が増加し、ピーク時（昭和54～55年）には3,780haまで拡大した。

栽培面積が拡大した「デラウェア」であったが、「晩腐病」の多発により、出荷量が年により安定しない等の課題が多かった。昭和50年代に入ると、全国に先駆けてぶどう園への雨除け施設の導入が始まり、それ以降、本県「デラウェア」の生産が安定した。

一方、この頃から、「デラウェア」価格が低下し、それに伴い、ぶどうの栽培面積が減少し始めた。県では「デラウェア」から収益性の高い大粒種ぶどうへの更新を推進し、「巨峰」、「ピオーネ」、「高尾」、「オリンピア」など導入されたが、いずれも100ha未満の導入にとどまった（高尾は約120haまで植栽された）。品種構成における「デラウェア」の比率は高いままで推移し、現在でも6割程度となっている。

平成に入ると、価格の低迷に加え、傾斜地のぶどう園が多いこと、昭和30～40年代に盛んに植えつけられたぶどう園の老木化による生産性の低下、さらには生産者の高齢化等から、栽培面積は急激に減少した。しかし、近年、平成19年に苗木販売が開始された「シャインマスカット」の導入や、日本ワインの需要の高まりに伴った醸造用ぶどうへの新植・改植が進んでいることから、ぶどう全体の栽培面積は微減となっている。



(5) もも

ももの栽培は、他の果樹同様、明治8年頃、内務省勸業寮より苗木の交付を受け、欧米種、支那種が導入されたが、欧米種は本県での栽培に適せず、支那種が栽培されるようになった。支那種は華中系の品種で「天津水蜜桃」、「上海水蜜桃」が普及した。

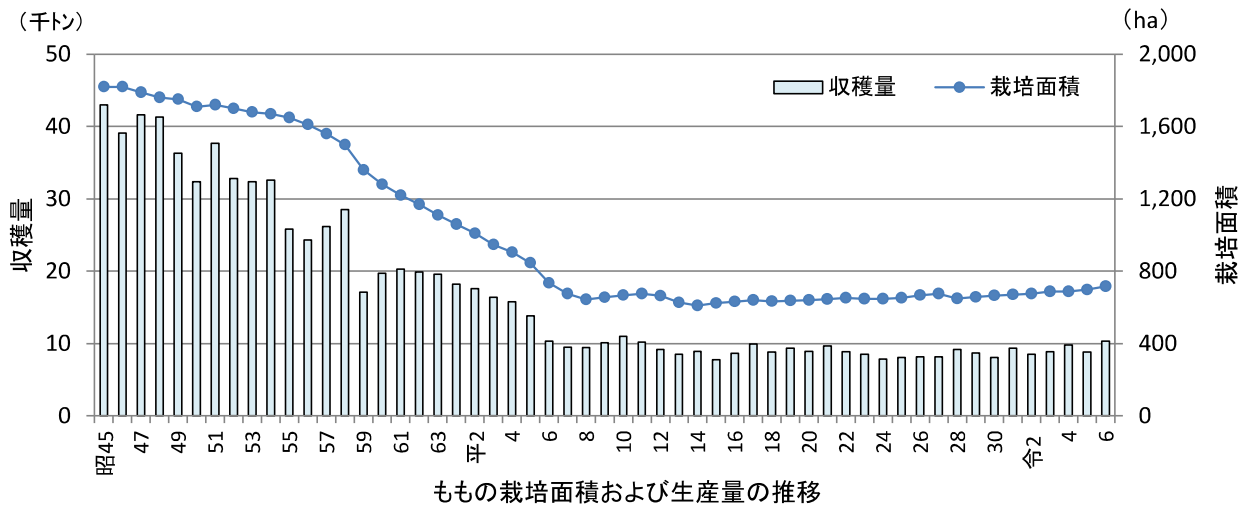
栽培地は庄内砂丘地の他、寒河江市と須川沿岸でも栽培され、生食が主で、缶詰での利用は限定的であった。

その後は加工需要の増加から、明治31年に570t、大正14年に1,100t、昭和14年に1,880tと生産量は増加したが、第2次世界大戦中の食糧増産のための強制伐採により生産量は急減した。

戦後、加工工場の増設により昭和30年頃から急速に増植が進み、優良品種の普及、技術の進歩等もあって、生産量の伸びは、他に類をみないほど著しかった。

しかし、加工需要の減退と園地の老朽化及び収益性の高い樹種への改植などから、栽培面積は昭和42年頃をピークに減少し、昭和50年代末以降、中国から安い缶詰が輸入され始めると、栽培面積は急激に減少していった。

近年は、生食用ももの価格が比較的安定していることから収益性の低い樹種や水田からの転換により新植がみられるようになった。平成10年以降は、生育期間中の気温が高く推移していること、9月以降のももの需要が見込めることなどから、それまで、「川中島白桃」や「ゆうぞら」など晩生品種を中心に生食用の栽培が増加した。さらに近年では、基幹品種の「あかつき」、「川中島白桃」前後の中晩生品種の導入拡大が進んでいること等から、栽培面積は微増傾向である。



(6) かき

かきは、全国的に地名を冠したいわゆる地柿と言われるものが多く、本県でも「関根柿」、「千才柿」をはじめ多様な品種が古くから栽培されていた。現在、栽培されている主要品種は「平核無」で、別名庄内柿といわれている。

「平核無」が本県にはじめて植栽されたのは明治18年といわれ、鶴岡市の鈴木重光氏が新潟の行商人から数種の苗木を購入し、その中に果実が扁平で、核無しの柿があるのを発見したと伝えられている。その原木は同市鳥居町に現存している。

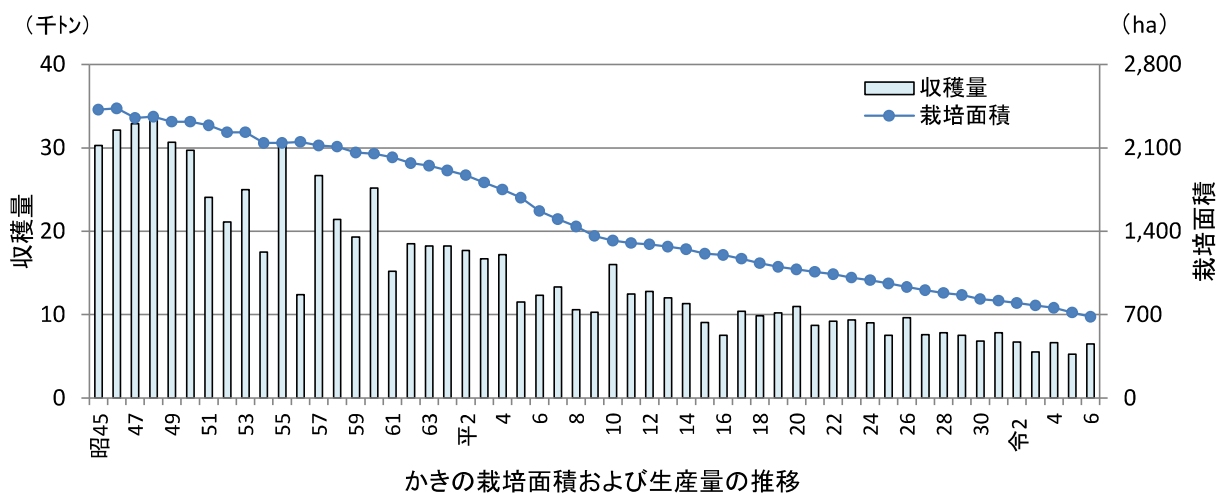
これが普及したのは、鈴木氏と親交の厚かった酒田市黒森の酒井調良氏の5haにおよぶ集団植栽に始まるといわれている。酒井調良氏が東京帝国大学の原教授よりアルコール脱渋法を学び、焼酎で成功し、普及・拡大した。原教授が「平核無」と名付け、庄内地域全体に知られるようになった。大正3年には北海道に向けた試験的な出荷が始まった。昭和になると、当時の庄内地方の郡農会を経て、北海道へ本格的な出荷がはじまり、それが好成績を収めたことから、その後栽培面積や出荷量も増加し、かきは、戦前では栽培面積、出荷量とも県内で最も多い品目となった。

昭和30年以降、「平核無」は北海道における安定した需要と価格にささえられ、栽培面積、生産量とも増加していったが、昭和50年代に入ると、和歌山県で「温州みかん」や「八朔」から「平核無」への改植が急速に進んだことで、全国的に出荷量が多くなった。

暖地に比べ出荷時期が遅く、果実肥大が劣る本県産「平核無」の価格は低迷したことと、生産者の高齢化などにより、栽培面積は昭和50年代後半から減少を続けている。なお、このころ、比較的高単価が期待される早生品種の「刀根早生」の導入が進められたが、新たにかきを導入しようとする生産者が少なく、期待したほどに栽培面積が拡大しなかった。

現在は付加価値を高めるために、樹上脱渋、干し柿など加工品製造にも取り組み、農家所得の向上を図っている。

また、近年は気候変動による平均気温上昇などを受け、「太秋」をはじめとした甘柿の栽培も拡大し始めている。



3 果樹品目別の生産動向

年産	さくらんぼ				西洋なし			
	栽培面積 (ha)	結果樹面積 (ha)	生産量 (t)	産出額 (億円)	栽培面積 (ha)	結果樹面積 (ha)	生産量 (t)	産出額 (億円)
明治 38 年	31	-	84	-	-	-	-	-
43 年	61	-	190	-	3	-	10	-
大正 9 年	126	-	590	-	22	-	54	-
昭和 5 年	165	-	1,460	-	32	-	158	-
15 年	218	-	1,880	-	307	-	1,970	-
25 年	119	-	912	-	139	-	1,310	-
35 年	536	-	3,560	6	501	-	4,860	-
40 年	866	644	5,500	8	963	672	8,640	-
45 年	1,080	908	10,500	32	668	646	10,700	(5)
50 年	1,810	1,290	10,600	57	564	550	6,650	5
55 年	1,720	1,580	10,700	53	322	315	4,520	(8)
60 年	1,640	1,530	18,200	118	242	194	2,680	(8)
平成 2 年	1,860	1,610	11,500	168	490	259	4,260	14
7 年	2,360	2,060	11,900	196	917	645	9,390	30
12 年	2,630	2,460	12,900	215	1,130	979	20,100	50
17 年	2,970	2,700	13,200	204	1,120	1,010	20,000	38
22 年	3,180	2,910	14,300	233	1,030	950	17,100	47
23 年	3,150	2,910	15,600	275	992	927	16,600	46
24 年	3,150	2,910	13,200	298	978	915	14,300	42
25 年	3,150	2,910	13,500	308	967	909	17,200	52
26 年	3,140	2,910	14,500	332	953	889	14,900	50
27 年	3,140	2,900	13,200	337	918	873	19,000	55
28 年	3,090	2,890	15,000	344	898	868	20,800	61
29 年	3,060	2,870	14,500	368	889	859	18,800	57
30 年	3,040	2,860	14,200	374	884	854	17,700	56
令和元年	3,050	2,840	11,900	362	876	846	18,900	59
2 年	3,060	2,830	13,000	333	872	839	19,100	62
3 年	3,020	2,800	9,160	319	859	826	13,900	58
4 年	2,960	2,790	12,400	378	843	814	18,200	66
5 年	2,880	2,770	13,000	378	823	798	13,200	60
6 年	2,800	2,710	8,590	320	797	780	17,800	68

(注) 1 出典は「耕地及び作付面積統計」、「果樹生産出荷統計」及び「生産農業所得統計」。
 2 昭和45年産以前の出荷量は暦年統計。西洋なしの()内数値は日本なしを含む数値。

年産	りんご				ぶどう			
	栽培面積 (ha)	結果樹面積 (ha)	生産量 (t)	産出額 (億円)	栽培面積 (ha)	結果樹面積 (ha)	生産量 (t)	産出額 (億円)
明治 38 年	319	-	482	-	22	-	52	-
43 年	408	-	1,030	-	21	-	134	-
大正 9 年	237	-	402	-	198	-	561	-
昭和 5 年	113	-	357	-	298	-	2,260	-
15 年	110	-	597	-	402	-	2,930	-
25 年	546	-	4,480	-	345	-	4,560	-
35 年	3,160	-	47,500	12	1,500	-	15,800	6
40 年	3,960	3,580	66,800	20	1,930	1,800	21,200	11
45 年	3,490	3,400	72,300	32	2,270	2,140	30,900	45
50 年	3,540	3,280	56,000	89	3,520	2,870	36,900	120
55 年	3,570	3,300	77,500	145	3,780	3,690	42,000	88
60 年	3,720	3,230	78,400	159	3,400	3,260	41,400	112
平成 2 年	3,700	3,330	86,600	186	3,030	2,910	31,900	117
7 年	3,400	3,190	68,800	131	2,450	2,380	26,000	122
12 年	2,990	2,860	43,800	95	2,060	2,000	22,200	90
17 年	2,660	2,550	45,000	75	1,870	1,790	21,000	67
22 年	2,470	2,360	43,700	64	1,740	1,670	19,700	88
23 年	2,440	2,330	30,800	62	1,720	1,650	18,600	87
24 年	2,410	2,310	45,000	88	1,700	1,640	20,200	92
25 年	2,390	2,290	46,500	106	1,680	1,600	16,600	79
26 年	2,370	2,270	52,400	114	1,670	1,590	19,200	91
27 年	2,340	2,260	50,600	115	1,600	1,540	18,200	111
28 年	2,320	2,250	45,700	111	1,560	1,520	18,700	109
29 年	2,300	2,230	47,100	108	1,560	1,500	16,700	111
30 年	2,280	2,210	41,300	98	1,550	1,490	16,100	118
令和元年	2,250	2,190	40,500	102	1,550	1,480	16,400	123
2 年	2,210	2,150	41,500	95	1,570	1,480	15,500	158
3 年	2,170	2,110	32,300	89	1,550	1,460	14,600	148
4 年	2,120	2,070	41,200	106	1,510	1,430	14,000	137
5 年	2,060	2,020	30,300	89	1,460	1,410	13,800	139
6 年	1,980	1,960	32,700	106	1,390	1,370	14,000	150

(注) 1 出典は「耕地及び作付面積統計」、「果樹生産出荷統計」及び「生産農業所得統計」。
2 昭和 4 5 年産以前の出荷量は暦年統計。

年産	も も				す も も			
	栽培面積 (ha)	結果樹面積 (ha)	生産量 (t)	産出額 (億円)	栽培面積 (ha)	結果樹面積 (ha)	生産量 (t)	産出額 (億円)
明治 38 年	144	-	311	-	-	-	-	-
43 年	152	-	449	-	-	-	-	-
大正 9 年	285	-	779	-	-	-	-	-
昭和 5 年	292	-	1,420	-	-	-	-	-
15 年	313	-	1,790	-	-	-	-	-
25 年	97	-	710	-	-	-	-	-
35 年	1,020	-	8,720	-	-	-	-	-
40 年	1,560	1,400	29,900	-	-	-	-	-
45 年	1,820	1,740	43,000	16	-	-	-	1
50 年	1,710	1,660	32,400	32	-	-	-	2
55 年	1,650	1,560	25,800	21	127	127	1,260	2
60 年	1,280	1,220	19,700	25	147	124	1,540	2
平成 2 年	1,010	986	17,600	34	160	134	1,790	5
7 年	675	603	9,460	24	161	136	1,750	6
12 年	664	580	9,190	18	191	165	1,260	4
17 年	640	554	9,930	16	217	189	1,970	5
22 年	652	565	8,870	27	238	210	1,950	6
23 年	647	576	8,520	25	241	217	1,390	5
24 年	647	585	7,840	26	245	223	1,400	5
25 年	652	594	8,080	26	248	228	1,560	5
26 年	668	596	8,170	26	250	233	1,960	7
27 年	676	602	8,190	28	251	237	1,970	7
28 年	649	604	9,180	31	250	238	2,220	8
29 年	657	607	8,680	29	255	241	1,780	9
30 年	666	611	8,070	31	258	245	2,000	10
令和元年	671	615	9,350	38	261	247	1,890	10
2 年	675	621	8,510	44	264	250	1,810	10
3 年	687	630	8,880	48	265	250	1,700	10
4 年	687	632	9,800	47	261	248	2,080	10
5 年	697	633	8,800	48	253	241	1,720	8
6 年	716	641	10,300	54	243	235	1,990	13

(注) 1 出典は「耕地及び作付面積統計」、「果樹生産出荷統計」及び「生産農業所得統計」。

2 昭和 4 5 年産以前の出荷量は暦年統計。かきの昭和 15 年以前は「生かき」である。

年産	か き				日 本 な し			
	栽培面積 (ha)	結果樹面積 (ha)	生産量 (t)	産出額 (億円)	栽培面積 (ha)	結果樹面積 (ha)	生産量 (t)	産出額 (億円)
明治 38 年	299	-	3,940	-	257	-	450	-
43 年	283	-	3,310	-	286	-	1,480	-
大正 9 年	414	-	3,310	-	330	-	915	-
昭和 5 年	511	-	6,100	-	277	-	1,850	-
15 年	651	-	7,960	-	209	-	1,780	-
25 年	470	-	6,200	-	98	-	1,310	-
35 年	814	-	12,100	-	173	-	1,690	-
40 年	2,100	1,760	18,800	-	149	135	1,500	-
45 年	2,420	2,090	30,300	17	155	132	2,060	-
50 年	2,320	1,970	29,700	30	152	136	1,710	2
55 年	2,140	1,880	30,200	26	162	151	2,310	-
60 年	2,050	1,860	25,200	30	157	143	2,000	-
平成 2 年	1,870	1,720	17,700	28	149	132	1,860	4
7 年	1,500	1,420	13,300	21	150	133	1,730	4
12 年	1,290	1,240	12,800	15	141	125	1,890	4
17 年	1,170	1,150	10,400	11	145	134	1,680	3
22 年	1,040	1,040	9,240	18	143	134	1,570	4
23 年	1,010	1,010	9,370	17	142	135	1,840	4
24 年	989	985	9,000	13	139	135	1,800	4
25 年	962	955	7,540	13	139	134	1,760	4
26 年	932	925	9,620	14	139	134	1,840	5
27 年	904	899	7,600	12	138	134	1,940	5
28 年	883	878	7,850	16	137	133	1,770	5
29 年	865	856	7,520	13	131	127	1,700	5
30 年	830	821	6,860	13	126	123	1,510	4
令和元年	817	808	7,830	16	122	121	1,750	5
2 年	797	788	6,750	15	117	115	1,540	6
3 年	777	768	5,530	14	112	110	1,210	5
4 年	757	748	6,630	13	107	106	1,370	4
5 年	717	710	5,260	13	102	101	1,240	5
6 年	683	679	6,480	17	100	99	1,370	5

(注) 1 出典は「耕地及び作付面積統計」、「果樹生産出荷統計」及び「生産農業所得統計」。
2 昭和 4 5 年産以前の出荷量は暦年統計。

4 品種別栽培面積の推移

(1) さくらんぼ

(単位：ha)

品種名	調査年度										構成割合	
	S61産	H2産	H7産	12年産	H17産	H22産	H27産	R2産	R3産	R4産		
早生	香夏錦	-	2.5	17.9	16.3	19.0	18.2	19.0	15.6	14.8	13.6	0.5%
	正光錦	-	-	-	-	8.1	25.8	28.4	20.4	19.7	17.6	0.6%
	桜頂錦	-	1.5	18.9	3.7	5.9	1.5	-	-	-	-	-
	紅ゆたか	-	-	-	-	-	2.5	9.0	8.0	7.7	7.6	0.3%
	紅さやか	-	-	14.6	35.0	49.8	108.7	133.0	135.7	133.0	133.7	4.5%
	山形美人	-	-	-	-	-	-	-	2.0	2.0	1.4	0.0%
	ジャボレ	33.0	47.5	35.0	16.9	19.5	7.9	2.6	1.8	1.9	1.8	0.1%
	高砂	90.0	110.9	154.8	80.1	65.6	68.4	52.6	39.7	38.9	38.6	1.3%
	花駒	-	-	-	-	-	-	-	-	1.2	1.2	0.0%
	日の出	3.0	4.8	4.3	0.9	1.2	0.3	-	-	-	-	-
	八興錦	-	-	0.1	0.7	1.1	0.3	-	-	-	-	-
中生	ジャボレ錦	-	-	0.2	0.7	0.1	0.2	1.5	1.5	1.6	1.6	0.1%
	ダイヤブライト	-	20.7	16.5	3.9	1.6	0.7	-	-	-	-	-
	紅きらり	-	-	-	-	-	7.2	6.2	4.9	4.9	5.0	0.2%
	佐藤錦	630.0	935.0	1,473.7	1,860.0	2,181.1	2,335.6	2,275.6	2,076.4	2,010.3	1,999.7	67.6%
	北光(水門)	3.3	2.2	1.8	0.9	0.9	0.1	-	-	-	-	-
	天香錦	-	-	1.0	1.7	2.8	1.6	3.4	2.0	2.2	-	-
	蔵王錦	0.2	11.8	4.0	1.7	0.4	0.2	-	-	-	-	-
	羽陽ことぶき	4.0	4.5	4.1	2.7	1.5	-	-	-	-	-	-
山形C12号	-	-	-	-	-	-	-	93.6	120.3	120.8	4.1%	
晩生	大将錦	-	-	5.3	4.4	10.1	12.8	20.8	12.3	12.1	10.8	0.4%
	紅秀峰	-	-	24.5	130.4	230.0	363.8	434.2	484.4	477.5	477.3	16.1%
	紅てまり	-	-	-	8.0	16.7	20.0	21.7	20.8	32.3	26.6	0.9%
	高陽錦	-	-	3.6	3.5	1.5	0.6	-	-	-	-	-
	ジャボレ	830.0	692.5	538.1	427.1	302.7	184.3	117.3	84.9	77.8	81.2	2.7%
	南陽	7.1	25.8	33.0	14.2	18.0	16.2	8.7	8.6	8.1	8.0	0.3%
	月山錦	-	-	-	-	-	1.7	6.0	5.7	5.9	-	-
統計	1,620	1,620	1,860	2,360	2,630	3,180	3,140	3,060	3,020	2,960		

(2) 西洋なし

	調査年度										構成割合
	S61産	H2産	H7産	H12産	H17産	H22産	H27産	R2産	R3産	R4産	
バート	-	-	-	7.1	17.5	13.9	13.0	15.5	14.8	14.8	1.8%
メロリッチ	-	-	-	-	-	5.0	22.0	27.8	27.5	28.1	3.3%
オーロラ	-	-	0.5	27.3	35.7	44.6	33.2	31.4	31.3	31.0	3.7%
シルバークラッシュ	-	31.3	67.3	50.0	55.6	30.1	21.6	20.0	19.3	12.2	1.4%
ゼネラル・レクレーク	-	2.0	6.5	7.4	11.2	8.3	7.2	5.1	5.0	5.4	0.6%
バートレット	103.3	48.4	35.3	32.8	36.2	22.7	18.4	16.1	15.8	14.7	1.7%
プレミッシュ・ビューティー	-	-	1.0	0.5	0.1	0.3	-	-	-	-	-
マックス・レッド・バートレット	-	-	0.4	0.9	1.4	5.2	3.0	-	-	-	-
マルゲリット・マリーラ	1.1	9.5	20.4	22.9	32.3	27.1	20.6	18.9	18.2	14.9	1.8%
ラ・フランス	134.4	386.3	761.0	961.9	912.0	856.6	765.5	714.9	708.1	701.1	83.2%
ル・レクチェ	3.2	6.1	21.9	12.9	6.6	14.3	9.4	7.9	7.9	3.6	0.4%
パスクラサン	-	3.2	0.5	0.3	0.4	-	-	-	-	-	-
ウインターリス	-	3.2	1.5	0.8	0.5	0.3	-	-	-	-	-
カリフォルニア	-	-	-	-	-	-	1.1	1.6	1.6	1.6	0.2%
トワイエネ・デュ・コムス	-	-	-	-	-	-	3.0	4.0	4.0	4.0	0.5%
統計	242	490	917	1,130	1,120	1,030	918	872	859	843	

資料：「特産果樹生産動態等調査」、「耕地及び作付面積統計」

(3) りんご

(単位: ha)

品 種 名												構 成 割 合
	S61産	H2産	H7産	H12産	H17産	H22産	H27産	R2産	R3産	R4産		
極 早 生	あおり16(恋空)	-	-	-	-	-	-	-	1.0	1.0	1.0	0.0%
	つがる姫	-	-	-	-	-	-	-	3.0	4.0	4.0	0.2%
早 生	さんさ	-	17.6	41.2	28.7	25.0	6.3	5.1	2.2	2.2	2.0	0.1%
	未希ライフ	-	-	-	1.2	1.2	1.5	-	-	-	-	-
	シナルッド	-	-	-	-	-	0.3	-	-	-	-	-
	シナドルチェ	-	-	-	-	-	-	1.0	3.0	3.0	3.0	0.1%
	ファーストレディ	-	-	-	-	-	48.0	72.5	30.4	27.2	22.8	1.1%
	あかね	25.3	28.2	27.7	29.1	8.1	2.5	2.0	1.8	1.8	1.8	0.1%
	つがる	410.0	546.0	500.1	385.0	318.0	273.0	258.7	228.7	221.1	208.3	9.8%
	ネロ26号	32.0	13.7	4.5	1.5	1.0	-	-	-	-	-	-
	みちのく	-	1.1	1.1	-	-	-	-	-	-	-	-
	祝	10.2	6.8	4.1	4.0	1.5	2.2	1.1	1.5	1.5	1.5	0.1%
中 生	千秋	144.3	280.2	157.9	120.0	119.4	45.5	17.6	12.6	12.1	11.0	0.5%
	陽光	14.8	22.4	49.0	48.2	37.1	28.1	12.4	10.0	9.1	9.0	0.4%
	紅月	1.0	1.7	0.6	0.5	-	-	-	-	-	-	-
	北斗	25.7	92.5	56.1	22.6	14.6	10.0	5.3	2.0	1.6	1.1	0.1%
	やたか	-	52.7	90.9	53.0	38.2	25.9	5.2	4.2	3.9	3.9	0.2%
	秋映	-	-	-	1.5	2.0	7.5	15.0	16.0	16.3	16.4	0.8%
	紅將軍	-	-	-	10.7	16.5	18.6	6.3	6.2	6.3	6.3	0.3%
	シナスイト	-	-	-	20.8	37.3	54.3	73.2	73.7	76.5	76.9	3.6%
	シナノールト	-	-	-	-	11.5	6.2	18.6	29.1	31.0	32.2	1.5%
	トキ	-	-	-	-	-	-	1.0	2.0	2.0	2.0	0.1%
	涼香の季節	-	-	-	2.3	9.0	10.3	7.4	7.4	7.4	7.4	0.3%
	秋陽	-	-	-	-	3.0	50.0	68.0	59.8	57.0	55.2	2.6%
	清明	-	-	-	-	3.2	0.5	-	-	-	-	-
	こうとく	-	-	-	-	-	0.5	5.0	12.2	13.6	16.7	0.8%
	アルプス乙女	-	-	-	-	2.6	1.9	-	-	-	-	-
	ゴールデンデリシャス	18.6	19.6	4.5	3.8	25.0	6.0	1.0	1.0	1.0	1.0	0.0%
	ジョノールト	75.0	121.7	96.2	82.0	65.5	38.0	18.2	14.2	13.7	11.7	0.6%
	デリシャス系	850.0	669.1	221.2	176.0	90.0	15.2	1.3	1.3	1.2	1.3	0.1%
	レッドゴールト	6.0	11.9	2.4	2.0	0.2	0.1	-	-	-	-	-
	昂林	-	-	33.0	75.7	89.0	146.4	146.0	142.2	141.5	140.9	6.6%
紅玉	310.5	241.4	155.4	123.6	88.3	59.5	38.3	36.1	35.4	37.5	1.8%	
世界一	15.0	21.9	23.6	14.1	5.2	2.5	1.3	1.3	1.0	1.0	0.0%	
弘前ふじ	-	-	-	-	4.7	19.3	15.2	20.8	20.9	20.3	1.0%	
相伝ふじ	-	-	-	-	-	-	25.0	24.5	24.5	23.4	1.1%	
晩 生	ぐんま名月	-	-	-	-	-	-	1.5	3.8	6.1	6.6	0.3%
	はるか	-	-	-	-	-	-	3.6	6.8	8.0	8.2	0.4%
	ふじ	1,365.0	1,211.2	1,635.0	1,520.0	1,389.0	1,328.7	1,232.1	1,167.8	1,161.4	1,149.1	54.2%
	ラクラクフジ	-	-	-	-	-	17.3	1.0	7.5	7.5	4.2	0.2%
	玉林	220.8	241.7	277.3	181.2	170.0	143.0	115.8	102.0	92.7	88.1	4.2%
	駒ふじ	-	-	-	25.0	31.0	18.5	13.6	11.4	11.4	11.4	0.5%
	2001年	-	-	-	47.8	47.7	81.6	106.7	96.5	97.8	78.9	3.7%
	陸奥	34.0	23.7	9.9	4.0	1.1	0.5	-	-	-	-	-
	極ふじ	-	-	-	-	-	-	36.1	45.3	45.4	45.1	2.1%
	コスモふじ	-	-	-	-	-	-	-	3.0	3.0	2.5	0.1%
	三島ふじ	-	-	-	-	-	-	-	1.3	1.3	1.3	0.1%
	宮美ふじ	-	-	-	-	-	-	-	7.0	7.0	2.0	0.1%
	こまちふじ	-	-	-	-	-	-	-	1.0	1.0	1.0	0.0%
統 計	3,710	3,700	3,400	2,990	2,660	2,470	2,340	2,210	2,170	2,120		

資料: 「特産果樹生産動態等調査」、「耕地及び作付面積統計」

(4) ぶどう (生食用)

(単位: ha)

品種名	調査年度										構成割合	
	S61産	H2産	H7産	H12産	H17産	H22産	H27産	R2産	R3産	R4産		
大粒系・赤	竜宝	—	1.2	1.2	1.0	0.8	0.3	—	—	—	—	—
	ルビ [®] -オキヤマ	—	0.5	0.4	0.8	0.9	0.1	—	—	—	—	—
	安芸クイン	—	—	7.7	14.8	12.3	8.1	7.9	5.8	4.6	4.7	0.3%
	ゴ [®] ルビ [®]	—	—	—	—	—	1.5	3.3	4.3	2.3	2.2	0.1%
	シノスマイル	—	—	—	—	—	—	—	3.0	—	1.0	0.1%
	オリンビ [®] A	39.3	50.3	21.1	26.3	17.9	14.5	2.2	1.4	1.3	1.3	0.1%
	甲斐路	1.0	3.3	6.2	5.2	3.0	1.1	1.1	1.0	—	—	—
	紅伊豆	—	2.6	1.1	2.2	1.7	0.7	—	—	—	—	—
	紅瑞宝	5.5	3.3	4.8	3.5	2.6	—	—	—	—	—	—
	紅富士	1.0	6.6	5.3	2.9	1.7	—	—	—	—	—	—
	赤嶺	—	—	1.4	0.8	4.0	1.0	1.0	—	—	—	—
	ロザ [®] リオロッソ	—	—	—	—	—	—	—	1.8	1.4	1.4	0.1%
	クインコーナ	—	—	—	—	—	—	1.0	4.5	5.0	8.0	0.5%
	リザ [®] マート	—	—	2.3	2.0	2.2	—	—	—	—	—	—
紅金沢	—	—	0.1	0.1	—	—	—	—	—	—	—	
大粒系・黒	伊豆錦	—	—	—	0.4	0.5	0.4	—	—	—	—	—
	藤稔	—	3.0	5.6	4.3	5.1	2.6	2.1	1.2	1.2	1.2	0.1%
	ナガノパープル	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1.0	0.1%
	ブラックビート	—	—	—	—	—	—	1.0	—	—	1.0	0.1%
	巨峰	64.3	81.0	50.0	39.4	45.5	51.2	42.5	22.0	21.3	21.5	1.4%
	ビ [®] オーネ	37.0	46.2	44.0	59.2	44.0	73.2	70.0	64.9	58.9	55.5	3.7%
	ブラックオリンビ [®] A	5.0	7.6	10.2	10.3	13.0	3.2	1.1	—	—	—	—
	高尾	55.0	72.3	117.5	105.9	78.8	47.7	31.0	17.7	16.2	15.2	1.0%
高墨	—	3.3	3.7	2.5	3.6	1.3	—	—	—	—	—	
ハニーブラック	—	—	0.1	1.0	—	—	—	—	—	—	—	
白	ロザ [®] リオビ [®] アソコ	—	—	1.1	3.7	24.0	24.9	10.6	5.2	4.8	5.9	0.4%
	瀬戸ジャイアンツ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1.0	0.1%
	シャインマスカット	—	—	—	—	—	42.3	105.4	227.2	250.8	253.2	16.8%
中粒系	サニールージュ	—	—	—	—	—	1.8	5.3	5.0	5.1	5.1	0.3%
	キャンパル・アーリー	128.5	102.6	60.0	49.3	45.0	6.0	7.0	5.7	5.6	5.5	0.4%
	甲州	8.0	13.1	9.5	10.0	13.0	8.5	7.3	7.2	7.2	6.9	0.5%
	コンコード [®]	24.2	50.8	22.1	7.1	6.4	0.4	—	—	—	—	—
	スチューベン	15.0	29.0	50.5	39.2	39.2	41.2	30.6	24.4	23.1	22.6	1.5%
	タノレット [®]	—	1.4	1.5	1.0	0.5	—	—	—	—	—	—
	ナイアガラ	54.1	58.2	48.7	38.7	40.2	44.7	31.8	24.2	23.8	21.5	1.4%
	ネオマスカット	21.1	15.3	2.7	5.3	7.4	3.8	2.5	—	—	—	—
	ヒムロッド [®]	—	—	—	—	2.1	2.3	—	—	—	—	—
	ポートランド [®]	—	—	—	0.3	1.0	—	—	—	—	—	—
マスカット・ベリーA	60.0	48.3	15.2	31.0	30.0	11.0	29.4	45.9	45.9	49.9	3.3%	
レット [®] ニヤガラ	—	—	3.3	1.0	1.2	—	—	—	—	—	—	
小粒系	キングデラ	—	—	25.6	22.7	18.0	14.6	4.4	2.7	2.8	2.9	0.2%
	紅南陽	—	—	6.4	4.6	6.0	1.2	—	—	—	—	—
	デラウェア	2,606.4	2,222.5	1,676.6	1,353.3	1,214.4	1,143.2	1,007.8	839.4	817.4	821.4	54.4%
	早生デラウェア	15.0	12.0	37.2	82.1	63.5	67.0	57.3	46.1	43.3	43.2	2.9%

(4) ぶどう (つづき・加工用)

(単位: ha)

品種名	調査年度										構成割合
	S61産	H2産	H7産	H12産	H17産	H22産	H27産	R2産	R3産	R4産	
ウエルデレイ	9.0	-	15.7	12.7	7.0	3.0	-	-	-	-	-
カベルネ・ソービニオン	-	8.2	10.2	7.0	9.0	8.4	12.8	13.7	14.3	14.3	0.9%
カベルネフラン	-	-	-	-	-	-	-	0.8	1.7	2.1	0.1%
サントリー・ノール	-	-	3.5	2.0	2.0	-	-	-	-	-	-
シャルトネ	3.0	11.3	19.0	19.7	26.0	23.7	36.6	47.8	48.4	49.1	3.3%
シラー	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
セイベル5279	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
セイベル9110	4.5	8.7	13.0	4.5	5.4	-	10.1	6.8	8.0	7.9	0.5%
セイベル10076	-	-	-	-	-	1.0	1.0	-	-	-	-
セイベル13053	-	-	-	2.2	1.6	-	-	-	-	-	-
ソービニオン・ブラン	-	-	-	-	-	-	2.6	4.2	4.9	4.8	0.3%
ツハイクルトレーベ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ビュノール	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ピノール	-	-	0.5	0.3	2.2	0.3	1.0	1.5	2.2	2.2	0.1%
ピノブラン	-	-	-	0.2	3.0	3.0	3.0	3.9	3.9	3.9	0.3%
ブタイベルトウ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ブティマンサン	-	-	-	-	-	-	-	1.0	3.0	2.9	0.2%
ブラック・クイン	1.2	-	2.3	1.0	1.0	-	1.7	4.0	7.3	10.0	0.7%
ブラック・カール・ ワイングランド	-	-	-	0.0	-	-	-	-	-	-	-
マスカット・オットネルソン	-	-	-	-	-	2.0	-	-	-	-	-
ミュートウルカウ	-	6.5	0.9	2.7	0.6	-	-	-	-	-	-
メルロー	18.6	40.8	48.2	25.1	19.2	14.5	22.3	23.4	21.6	21.5	1.4%
モリオマスカット	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヤマソービニオン	-	-	-	-	5.0	9.0	10.4	10.1	10.2	9.5	0.6%
山ぶどう	60.0	77.5	63.5	25.2	22.9	34.5	29.0	26.4	20.3	17.7	1.2%
ライヘンシュタイナー	-	-	-	-	-	-	-	2.5	-	2.5	0.2%
リースリク	-	21.8	0.2	2.9	-	-	3.0	1.5	-	-	-
リースリク・フォルテ	-	-	7.0	3.5	3.5	2.0	2.0	1.6	1.0	1.0	0.1%
リースリク・リオン	11.8	1.9	3.3	2.4	2.6	2.0	-	-	-	-	-
ワイングランド	-	-	-	-	4.0	-	-	-	-	-	-
統 計	3,360	3,030	2,450	2,060	1,870	1,740	1,600	1,570	1,550	1,510	

資料: 「特産果樹生産動態等調査」、 「耕地及び作付面積統計」

(5) もも

(単位: ha)

品種名	調査年度										構成割合	
	S61年産	H2産	H7産	12年産	H17産	H22産	H27産	R2産	R3産	R4産		
早生	日川白鳳	-	-	-	-	1.2	1.3	1.3	1.8	1.5	1.6	0.2%
	加納岩白桃	-	-	-	-	1.2	1.2	-	1.0	1.0	1.0	0.1%
	暁星	-	-	0.2	1.4	2.1	0.4	1.2	1.2	1.1	1.1	0.2%
	紅国見	-	-	-	5.3	4.5	3.3	1.7	3.0	3.0	1.2	0.2%
	砂子早生	45.6	38.8	1.4	5.0	-	0.5	-	-	-	-	-
	倉方早生	45.0	23.4	2.5	3.9	6.3	0.5	-	-	-	-	-
	八幡白鳳	-	-	0.1	1.1	1.2	0.1	-	-	-	-	-
	武井白鳳	-	-	0.2	1.0	-	-	-	-	-	-	-
	小平早生	20.0	2.5	0.3	0.0	-	-	-	-	-	-	-
	夢富士	-	-	-	0.6	0.5	0.1	-	-	-	-	-
中生	長沢白鳳	-	-	7.3	1.2	1.4	0.6	-	-	-	-	-
	紅錦香	-	-	-	6.0	11.2	31.2	13.8	11.7	11.8	11.9	1.7%
	おどろき	-	-	0.8	13.9	12.2	14.7	13.7	13.3	13.4	11.4	1.7%
	よしひめ	-	-	0.6	0.5	0.1	0.5	-	-	-	-	-
	まさひめ	-	-	0.5	2.2	0.5	1.7	-	-	-	-	-
	なつおとめ	-	-	-	-	1.0	2.0	1.7	1.4	1.5	1.5	0.2%
	まなみ	-	-	0.1	2.7	1.9	1.4	-	-	-	-	-
	陽夏妃	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5.8	-
	あかつき	7.7	22.3	72.6	102.6	97.0	97.7	108.5	111.7	112.1	109.2	15.9%
	いけだ	-	-	-	20.2	25.7	26.9	22.4	17.3	17.0	18.8	2.7%
	山根白桃	-	-	-	-	5.3	1.2	-	-	-	-	-
	千曲	2.0	0.3	-	0.0	0.1	-	-	-	-	-	-
	川中島白鳳	-	-	0.5	10.0	5.5	7.2	1.5	1.3	1.1	1.1	0.2%
	大久保	670.0	373.4	339.2	202.0	145.5	74.2	40.0	29.2	28.8	29.2	4.3%
	白根白桃	-	-	-	-	2.2	3.1	3.0	4.0	3.9	3.8	0.6%
	白鳳	142.7	75.1	32.9	16.4	9.9	1.4	-	-	-	-	-
	まどか	-	-	-	5.0	6.2	4.4	32.7	32.8	33.9	35.5	5.2%
滝ノ沢ゴールド	-	-	-	-	-	-	-	1.5	1.5	-	-	
白桃系(中生)	18.2	40.8	13.4	2.7	1.5	1.1	-	-	-	-	-	
白鳳系(中生)	2.0	11.8	-	3.5	-	-	-	-	-	-	-	
晩生	ゆうぞら	-	7.5	10.7	25.9	26.5	34.6	21.0	16.8	16.6	11.2	1.6%
	西王母	-	-	-	-	-	15.0	12.2	11.5	11.4	11.4	1.7%
	あぶくま	-	-	-	0.2	1.8	6.2	10.5	8.2	8.3	8.5	1.2%
	美晴白桃	-	-	-	6.2	10.1	18.1	38.3	38.1	37.7	38.2	5.6%
	阿部白桃	-	-	-	1.2	0.6	-	-	1.0	1.0	1.0	0.1%
	黄貴紀	-	-	-	-	-	2.3	4.7	4.0	3.9	2.9	0.4%
	玉うさぎ	-	-	-	-	-	5.4	21.5	19.9	20.1	20.3	3.0%
	ふくよか美人	-	-	-	-	-	1.0	1.1	1.2	1.2	1.1	0.2%
	青空むすめ	-	-	-	-	-	1.6	13.5	13.5	13.5	13.8	2.0%
	黄ららのきわみ	-	-	-	-	-	1.3	1.0	-	-	-	-

(5) もも (つづき)

(単位: ha)

品種名	調査年度										構成割合	
	S61年産	H2産	H7産	12年産	H17産	H22産	H27産	R2産	R3産	R4産		
晩	黄金桃	-	-	1.1	11.1	10.4	10.2	29.8	28.4	28.5	28.4	4.1%
	白桃	-	37.4	32.5	2.8	7.0	0.4	-	-	-	-	-
	川中島白桃	-	20.6	93.3	145.6	198.1	203.2	216.6	214.1	218.2	217.5	31.7%
	だて白桃	-	-	-	-	-	5.9	12.1	21.6	21.6	19.3	2.8%
生	さくら	-	-	-	-	-	3.9	17.2	24.2	24.8	25.8	3.8%
	かぐや	-	-	-	-	-	-	-	2.1	2.8	2.7	0.4%
	もちづき	-	-	-	15.7	14.2	37.9	30.7	21.8	21.8	15.9	2.3%
加工用	缶桃5号	155.0	87.1	19.7	7.9	6.6	7.0	3.0	-	-	-	-
	缶桃14号	29.8	50.5	21.9	0.9	-	-	-	-	-	-	-
ネット	秀峰	12.0	3.4	3.4	7.1	4.4	1.0	-	-	-	-	-
	その他ネット	9.0	-	-	1.7	2.4	-	-	-	-	-	-
統計	1,220	1,010	675	664	640	652	676	675	687	687		

資料: 「特産果樹生産動態等調査」、「耕地及び作付面積統計」

(6) すもも

(単位: ha)

品種名	調査年度										構成割合			
	S61産	H2産	H7産	12年産	H17産	H22産	H27産	R2産	R3産	R4産				
すもも	早生	紅りようぜん	-	-	1.6	3.7	7.5	7.7	4.8	5.0	4.8	4.8	1.8%	
		李王	-	-	0.7	0.0	1.5	0.4	-	-	-	-	-	
		ハニーローザ	-	-	-	-	-	0.3	-	-	-	-	-	
		ビュティ	5.8	4.0	1.8	2.0	2.2	0.2	1.0	1.0	1.0	1.0	0.4%	
		メスレー	-	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	
		大石早生	44.8	35.3	52.4	49.2	59.0	47.1	54.7	51.8	51.6	45.2	17.3%	
		早生月光	-	-	0.2	0.0	-	-	-	-	-	-	-	
		関口早生	-	-	1.1	0.6	-	-	-	-	-	-	-	
	相川ジャンボ	-	-	0.8	0.0	-	-	-	-	-	-	-		
	中生	貴陽	-	-	-	1.5	5.8	8.2	7.4	6.2	5.3	5.3	2.0%	
		サンタローザ	7.5	7.9	3.5	3.7	1.4	0.2	-	-	-	-	-	
		サマーエンジェル	-	-	-	-	-	-	2	4.3	4.9	6.0	2.3%	
		サマービュート	-	-	-	-	-	-	1.1	2.0	2.1	1.6	0.6%	
		ソルダム	47.6	68.3	45.4	53.3	45.5	32.4	30.4	26.5	24.7	21.3	8.2%	
		大石中生	0.5	13.5	1.7	7.3	2.2	1.0	-	1.0	1.0	1.0	0.4%	
		フォーモサ	-	-	3.2	2.4	-	-	-	-	-	-	-	
	月光	-	-	0.8	0.0	-	-	-	-	-	-	-		
	晩生	秋姫	-	-	3.4	7.8	28.8	62.5	79.5	73.6	71.8	71.2	27.3%	
		サンルージュ	-	-	-	-	-	3.6	8.5	12.1	12.3	12.3	4.7%	
		サンセプト	-	-	-	-	-	2.4	7.7	8.1	8.9	10.5	4.0%	
		恋花火	-	-	-	-	-	-	3.2	8.1	9.3	9.3	3.6%	
		レートソルダム	-	3.2	4.5	8.1	12.8	14.8	15.2	11.2	10.2	10.2	3.9%	
		赤すもも	-	-	9.8	9.1	4.0	0.2	-	-	-	-	-	
		太陽	5.1	4.8	10.7	14.8	19.0	25.5	22.7	18.6	18.5	17.7	6.8%	
	ケルシー	-	-	2.6	2.5	-	-	1.3	1.5	1.5	1.6	0.6%		
	ブルーイン	早生	アーリーリバーズ	-	-	2.0	0.7	0.6	1.1	-	-	-	-	-
			ツアー	-	-	0.1	0.8	0.7	0.1	-	-	-	-	-
中生		シュガー	-	2.9	3.7	0.6	0.8	0.1	-	-	-	-	-	
		サンシュガー	-	-	0.1	0.1	-	0.1	-	-	-	-	-	
晩生		サンブルー	-	2.9	3.3	4.6	2.9	1.4	1.1	1.2	1.3	1.2	0.5%	
		スタンレイ	-	1.6	0.3	0.5	0.7	0.5	-	-	-	-	-	
		プレジデント	-	-	1.1	3.5	3.8	6.4	4.7	5.7	5.7	4.7	1.8%	
		ベイト	-	-	-	0.0	-	-	-	-	-	-	-	
		ブルーアイ	-	-	0.1	7.1	6.0	5.3	5.7	5.5	5.5	5.5	2.1%	
ハンガリアン	-	-	0.1	0.1	1.4	-	-	-	-	-	-			
統計	147	160	161	191	217	238	251	264	265	261				

資料: 「特産果樹生産動態等調査」、「耕地及び作付面積統計」

(7)かき

(単位：ha)

品種名	調査年度										構成割合
	S61産	H2産	H7産	H12産	H17産	H22産	H27産	R2産	R3産	R4産	
太秋	-	-	-	-	-	0.1	-	1.0	1.0	1.0	0.1%
刀根早生	76.4	126.5	194.5	181.2	152.4	151.0	135.4	105.6	102.4	89.4	11.8%
大核無	-	-	-	-	1.4	0.9	10.0	6.5	6.5	6.5	0.9%
孝子丸	-	-	0.1	0.3	0.3	-	-	-	-	-	-
次郎	-	0.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-
松本早生富有	-	9.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-
紅柿	59.5	27.9	24.8	16.0	13.5	17.5	17.2	14.9	14.7	14.5	1.9%
石橋早生	-	28.1	38.7	44.3	29.6	29.9	13.7	9.1	8.8	9.7	1.3%
平核無	1,862.0	1,676.5	1,240.7	1,044.3	967.0	840.0	727.7	621.8	603.1	568.8	75.1%
杉田早生	-	1.2	1.3	1.0	0.2	0.4	-	-	-	-	-
統 計	2,020	1,870	1,500	1,290	1,170	1,040	904	797	777	757	

資料：「特産果樹生産動態等調査」、 「耕地及び作付面積統計」

(8) 日本なし

(単位：ha)

品種名	調査年度										構成割合		
	S61産	H2産	H7産	H12産	H17産	H22産	H27産	R2産	R3産	R4産			
赤なし	早生	幸水	46.8	63.6	68.1	69.0	80.5	93.0	98.5	87.8	83.4	77.8	72.7%
		新水	8.0	13.5	10.8	7.0	5.8	2.4	-	-	-	-	-
	中生	新星	-	1.3	3.0	3.6	2.8	2.5	2.0	1.4	1.4	1.4	1.3%
		南水	-	-	-	-	1.1	1.2	3.5	2.5	2.4	2.4	2.2%
		あきづき	-	-	-	0.5	0.5	2.8	5.0	2.8	2.7	2.7	2.5%
		豊水	17.7	21.5	27.6	32.0	28.3	33.0	26.5	22.1	21.7	20.6	19.3%
		長十郎	59.9	27.6	14.3	5.3	2.8	0.5	-	-	-	-	-
	晩生	新高	-	-	0.1	0.5	1.4	2.0	1.5	-	1.0	1.0	0.9%
		新興	-	-	-	0.7	0.9	-	-	-	-	-	-
		早生赤	-	0.6	0.6	0.0	-	-	-	-	-	-	-
青なし	早生	八雲	9.0	5.7	6.8	7.1	2.8	0.3	-	-	-	-	-
		八幸	-	2.6	1.2	1.4	1.0	-	-	-	-	-	-
	中生	二十世紀	21.6	12.3	10.7	8.0	8.0	5.3	1.0	-	-	-	-
統 計		163	149	150	140	145	143	138	117	112	107		

資料：「特産果樹生産動態等調査」、 「耕地及び作付面積統計」

5 果樹の産地構造

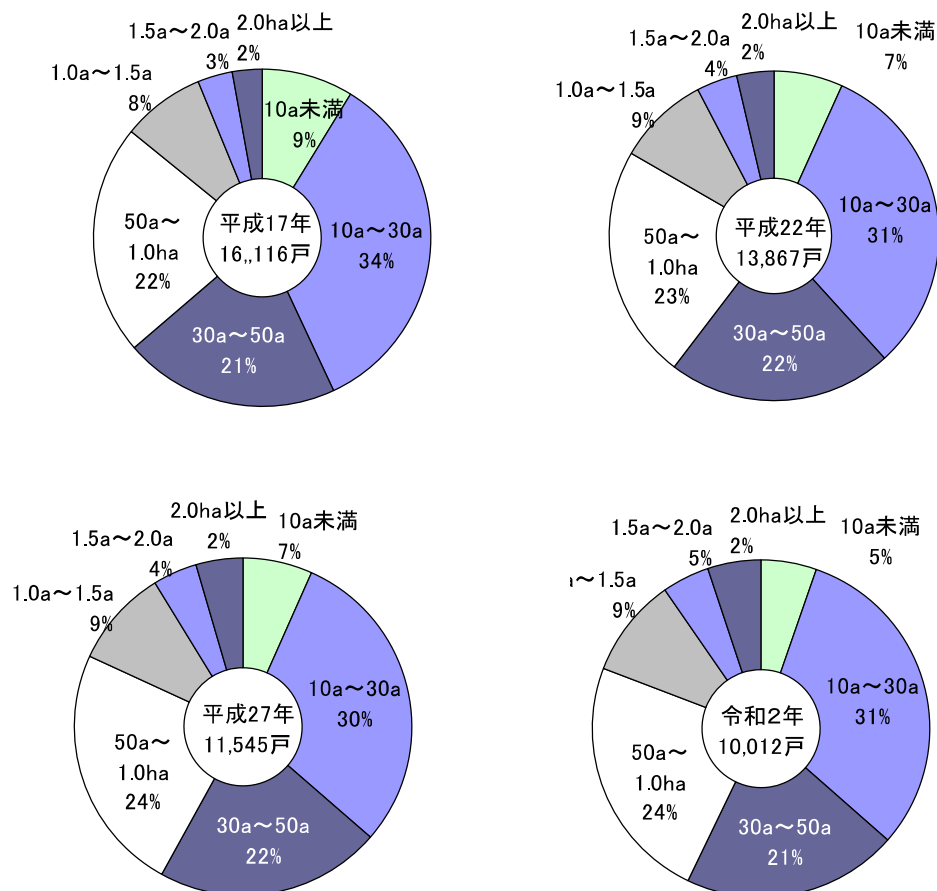
(1) 果樹の栽培面積規模別農家数

栽培面積規模別	栽培農家数 (戸)			
	平成 17 年	平成 22 年	平成 27 年	令和 2 年
計	16,116	13,867	11,545	10,012
10a 未満	1,417	939	769	533
10～30	5,521	4,374	3,429	3,118
30～50	3,328	3,056	2,501	2,068
50a～1.0ha	3,569	3,190	2,750	2,371
1.0～1.5	1,284	1,250	1,086	954
1.5～2.0	537	554	491	455
2.0ha 以上	460	504	519	513

注) 1 農家とは、販売農家である。

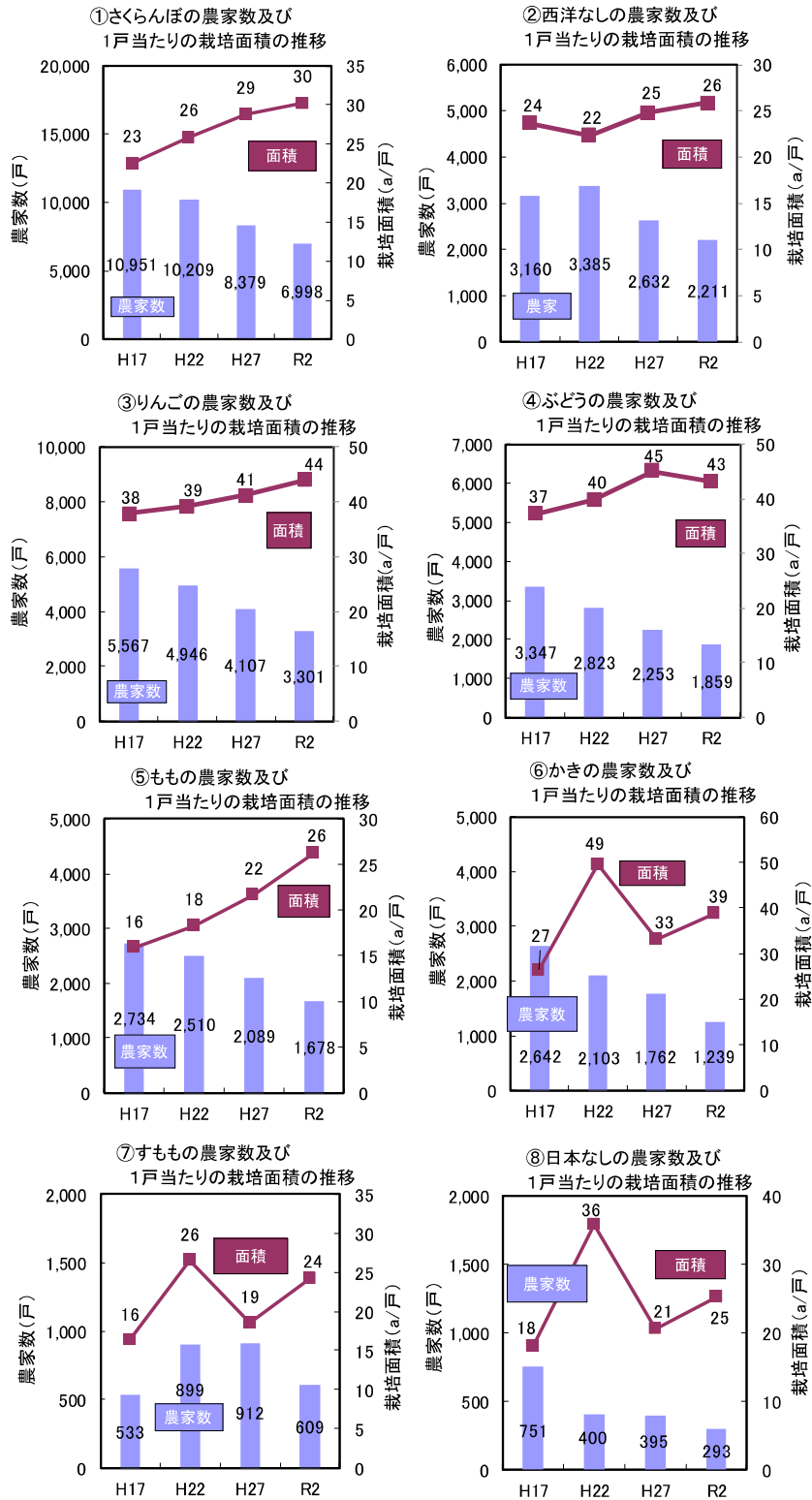
出典：農林業センサス

2 栽培面積とは、販売目的で栽培している面積である。



(2) 主要果樹の栽培農家数及び1戸当たりの栽培面積の推移

5 農家数及び1戸当たりの栽培面積の推移



出典：農林業センサス

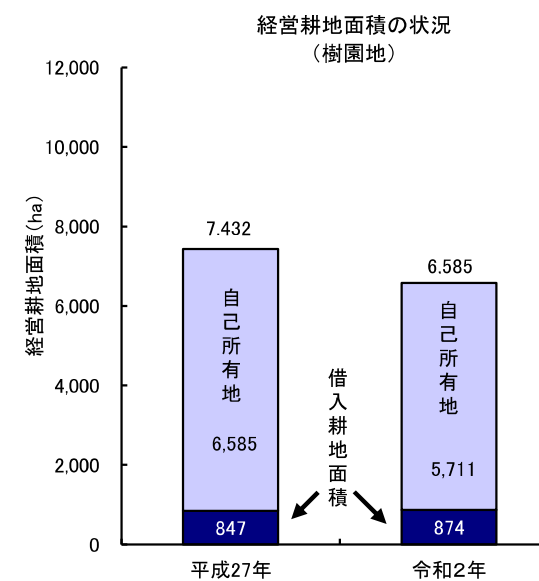
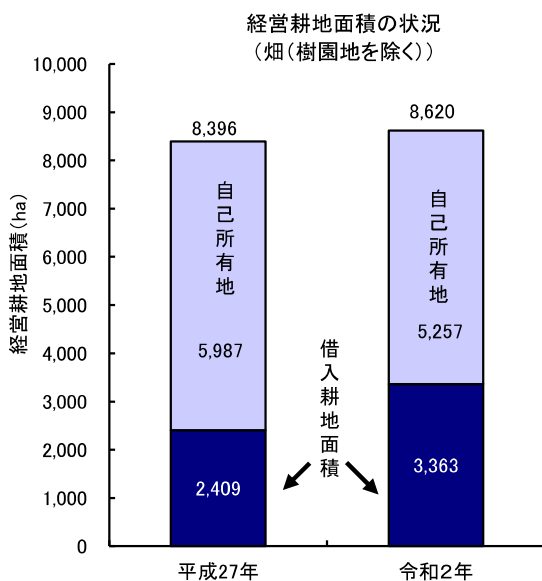
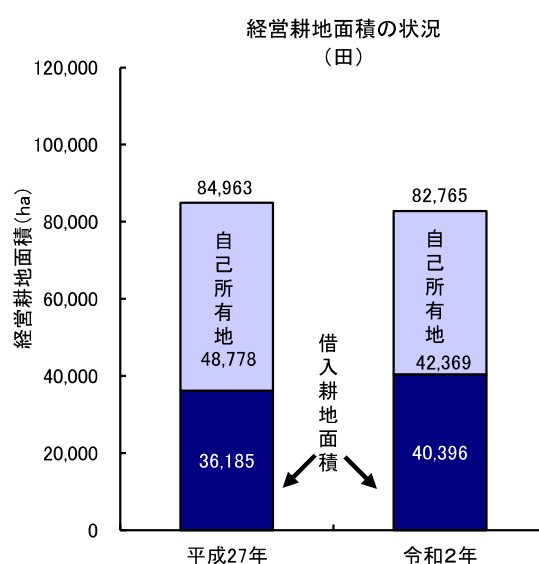
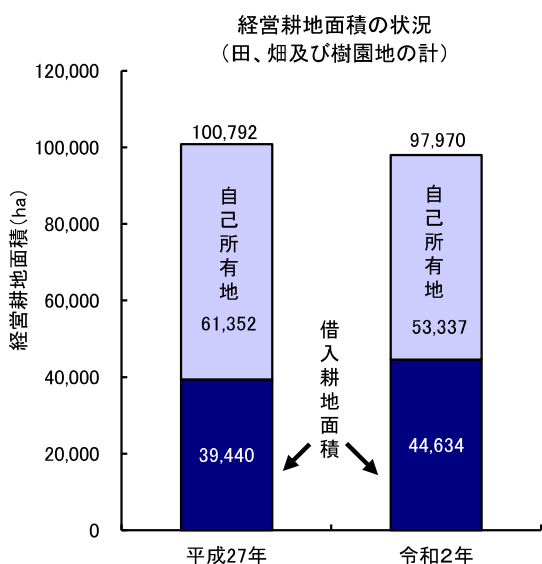
注) 「農家数」＝販売農家数
「1戸当たりの栽培面積」＝販売農家が栽培する面積÷販売農家数
(ただし、H17の西洋なしについては、農業経営体数(総数)とその栽培面積を利用)

(3) 本県における借入耕地の状況

単位:ha

借入耕地面積	計		田		畑(樹園地を除く)		樹園地	
	平成27年	令和2年	平成27年	令和2年	平成27年	令和2年	平成27年	令和2年
山形県	39,440	44,634	36,185	40,396	2,409	3,363	847	874
村山地域	9,526	11,928	8,025	10,146	842	1,096	659	686
最上地域	4,375	4,871	3,887	4,258	481	608	6	4
置賜地域	8,489	10,122	7,785	8,979	586	1,025	119	117
庄内地域	17,051	17,714	16,488	17,013	500	633	63	67
(経営耕地面積)	100,792	97,970	84,963	82,765	8,396	8,620	7,432	6,585

出典：農林業センサス



出典：農林業センサス

6 果実の流通・消費の動向

(1) 山形県産果実の品目別販売価格の推移（東京都中央卸売市場）

		販売価格（円/kg）						
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	5ヶ年平均 (R1～5)
さくらんぼ	山形	2,482	2,262	2,777	2,503	2,394	3,221	2,484
	全国	2,295	2,186	2,565	2,489	2,322	2,896	2,371
西洋なし	山形	317	365	446	354	457	388	388
	全国	334	384	467	372	489	426	409
りんご	山形	261	254	282	361	338	381	299
	全国	313	360	318	262	384	454	327
ぶどう	山形	773	954	921	864	965	1,029	895
	全国	1,236	1,465	1,566	1,566	1,644	1,700	1,495
もも	山形	400	542	544	422	528	520	487
	全国	620	727	735	728	746	786	711
かき	山形	216	237	292	220	292	331	251
	全国	280	324	346	276	356	387	316

注) 「山形」…東京都中央卸売市場における山形県産の
果実販売価格の平均（1～12月）
「全国」…東京都中央卸売市場における全国の
果実販売価格の平均（1～12月）

出典：東京都中央卸売市場年報

(2) 山形県産果実の品目別流通状況（東京都中央卸売市場）

		販売数量（t）						5ヶ年平均 (R1～5)
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	
さくらんぼ	山形	1,071	1,238	728	987	1,135	519	1,032
	全国	1,431	1,561	1,034	1,142	1,376	735	1,309
	県産果実 の割合	75%	79%	70%	86%	82%	71%	78%
西洋なし	山形	2,287	2,034	1,547	2,220	1,477	2,122	1,913
	全国	2,955	2,643	2,077	2,890	1,937	2,664	2,500
	県産果実 の割合	77%	77%	74%	79%	73%	80%	76%
りんご	山形	4,270	4,528	3,790	5,286	2,829	3,179	4,141
	全国合計	61,485	57,725	62,047	57,177	55,845	48,556	58,856
	県産果実 の割合	7%	8%	6%	9%	5%	7%	7%
ぶどう	山形	1,948	1,755	1,784	1,710	1,481	1,561	1,736
	全国	14,072	13,385	13,722	14,014	14,398	15,319	13,918
	県産果実 の割合	14%	13%	13%	12%	10%	10%	12%
もも	山形	1051	789	1,111	1,314	1,023	1,397	1,058
	全国	12,971	10,882	12,482	13,616	12,625	13,369	12,515
	県産果実 の割合	8%	7%	9%	10%	8%	10%	8%
かき	山形	777	642	499	696	617	829	646
	全国	20,641	19,483	19,444	24,445	20,561	18,617	20,915
	県産果実 の割合	4%	3%	3%	3%	3%	4%	3%

出典：東京都中央卸売市場年報

(3) 品目別の一世帯当たりの年間支出金額及び購入数量の推移

年次		H30	R1	R2	R3	R4	R5	5ヶ年平均 (H30～R4)
生鮮 果物	金額 (円)	35,061	35,742	36,957	43,728	48,682	52,532	40,034
	数量 (g)	71,231	71,998	71,697	80,567	83,229	71,794	75,744
なし	金額 (円)	1,673	1,750	1,598	3,241	4,236	2,765	2,500
	数量 (g)	3,354	3,092	2,497	4,494	6,937	3,876	4,075
りんご	金額 (円)	4,638	4,650	4,957	5,217	5,624	7,953	5,017
	数量 (g)	10,363	10,784	10,175	13,451	15,837	21,130	12,122
ぶどう	金額 (円)	2,724	2,874	3,107	3,588	3,995	4,626	3,258
	数量 (g)	2,272	2,432	2,262	2,987	2,738	2,990	2,538
もも	金額 (円)	1,005	1,034	1,012	1,335	1,233	1,552	1,124
	数量 (g)	1,299	1,205	1,074	1,926	1,894	1,806	1,480
かき	金額 (円)	1,010	1,021	1,110	765	1,049	691	991
	数量 (g)	2,440	2,395	2,369	1,647	3,548	1,357	2,480

出典：家計調査 一世帯当たり年間の品目別支出金額、購入数量及び平均価格（二人以上の世帯）
 表中の「なし」は、「西洋なし」を含む。